

# 校歌

作詞 児玉 花外  
作曲 山田 耕作

一、白雲なびく駿河台

眉秀でたる若人が

撞くや時代の暁の鐘

文化の潮みちびきて

遂げし維新の栄になふ

明治その名ぞ吾等が母校

明治その名ぞ吾等が母校

二、権利自由の揺籃の

歴史は古く今もなほ

強き光に輝けり

独立自治の旗幟し

高き理想の道を行く

我等が健児の意気をば知るや

我等が健児の意気をば知るや

三、霊峰不二を仰ぎつつ

刻苦研鑽他念なき

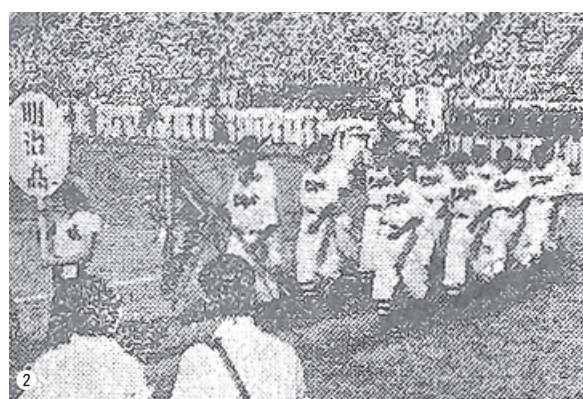
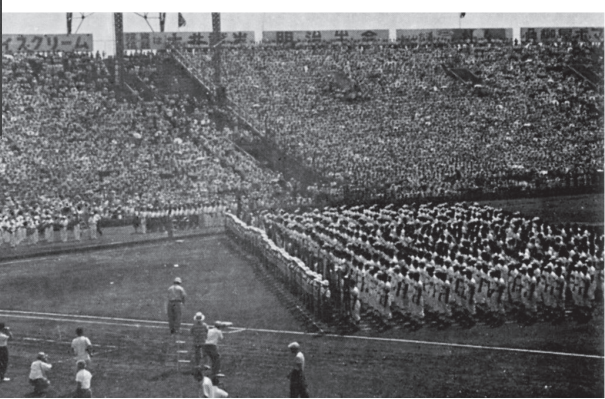
我等に燃ゆる希望あり

いでや東亜の一角に

時代の夢を破るべく

正義の鐘を打ちて鳴らさむ

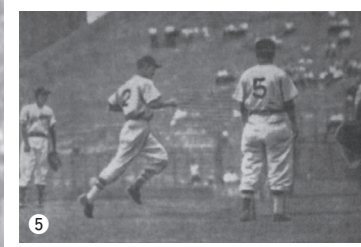
正義の鐘を打ちて鳴らさむ



昭和28年慶全国高校野球選手権大会



昭和28年慶全国高校野球選手権大会



第30回選抜高等学校野球大会



第30回選抜高等学校野球大会

硬式野球部 創部80周年記念誌 目次

ご挨拶 ..... 2  
 ■ 明球会 会長 一泉 二郎    ■ 校 長 金子 光男    ■ 監 督 小林 千春    ■ 部 長 前島 研二

ご祝辞 ..... 4  
 ■ 福岡ソフトバンクホークス株式会社 取締役会長 王 貞治  
 ■ 東京都高等学校野球連盟 理事長 武井 克時

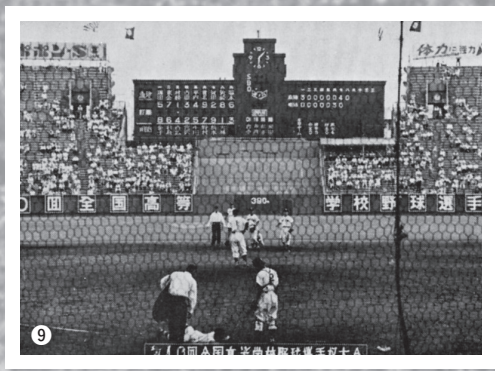
明治高校野球部メモリアル ..... 6  
 昭和27年卒 松田 龍太郎 / 昭和29年卒 浮貝 文夫 / 昭和34年卒 宮澤 政信 / 昭和38年卒 山田 正雄 / 昭和41年卒 大澤 富次  
 昭和49年卒 飯田 邦夫 / 昭和53年卒 土肥 誠 / 昭和56年卒 飯野 善明 / 平成21年卒 西澤 翔 / ◆ 明高新聞ダイジェスト

明治高校野球部戦歴 ..... 16

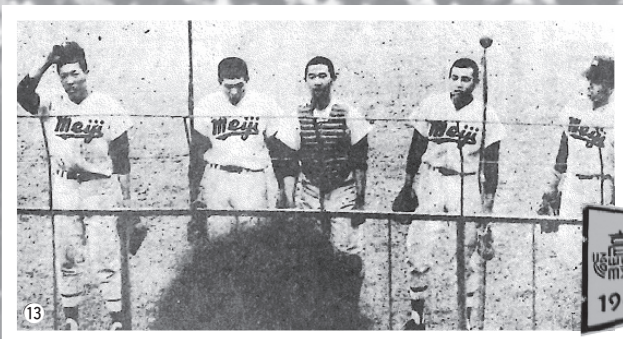
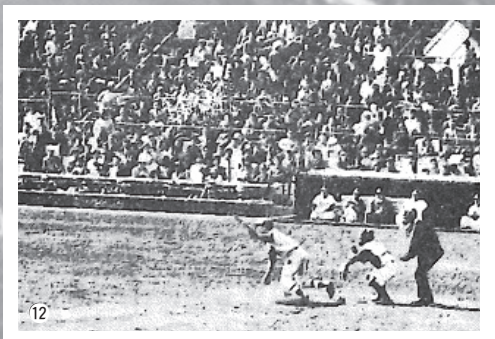
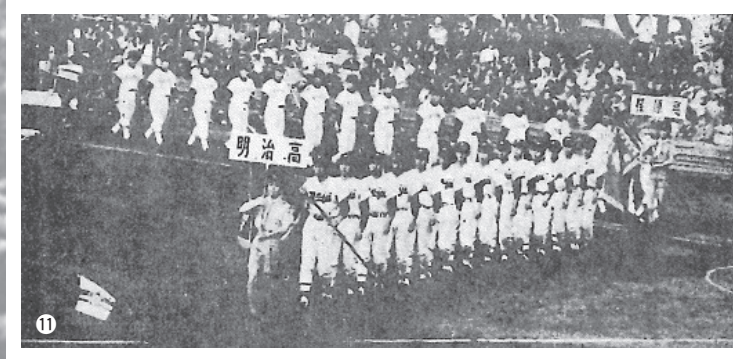
歴代監督・部長・主将一覧 ..... 26

監督を囲む会 ..... 27  
 ■ 獅子の会    ■ 卵の木会

思い出のアルバム ..... 28



- ① 甲子園大会開会式
- ② 昭和25年夏の甲子園 堂々の入場
- ③、④、⑤ 昭和28年夏の甲子園
- ⑥、⑦ 昭和33年春の甲子園
- ⑧、⑨、⑩ 昭和33年夏の甲子園
- ⑪、⑫、⑬ : 昭和40年春の甲子園出





明治大学附属明治高等学校 昭和51年卒  
硬式野球部OB会 明球会 会長 一泉 二郎

## 「明治高校硬式野球部創部80周年にあたって」

明治高校硬式野球部の創部80周年に心からお祝い申し上げます。

校長先生をはじめ、部長先生や多くの学校関係者の皆様のご努力、関係諸団体、OBの皆様のご尽力の賜物と思います。明球会(明治高校硬式野球部OB会)への日頃からのご支援に心から感謝申し上げます。

学校からのご支援を頂きまして明球会も約60余年の歴史を重ねることが出来ました。私がこのOB会の任に就きまして5年になります。皆様のご支援に心から厚く御礼申し上げます。私は明治高校野球部が大好きです。坂本哲郎顧問はじめ多くの先輩方々に来る3月24日にお会い出来るのが楽しみです。若輩の私を支えて下さっている多くの先輩方、後輩の皆様には日々感謝致しております。卒業生の思いが様々でも「明治高校野球部OB」の志は一徹一貫です。

明治高校野球部の現役当時の気持をOB皆が持ち続けているのだと思います。創部80周年記念にあたりまして、王貞治さんや明治高校野球部卒の多くの名選手から思い出のご寄稿を頂きました。心から有難いと思っております。やはり胸に紫紺の『meiji』の印です。この創部80周年記念実行委員会の運営にあたりましては、多くの方々からご意見を頂きました。嬉しかったです。今回、早実OBの方からも「強い明治さんであって欲しい」とのお話を頂きました。今は、小林千春監督がご活躍されていますが、脈々と明治の闘魂は受け継がれております。創部80周年記念式典では、歴代の監督への感謝状贈呈を行います。ご連絡の取れた11名の方々でございます。11名の方々に心から感謝申し上げます。小林千春監督と現役選手38名の応援を皆で致しましょう。

明治高校野球部OBの皆様のご活躍をご祈念申し上げます。今回、「明治高校硬式野球部創部80周年」を祝して頂きました多くの皆様に深く御礼申し上げます。有難うございました。



明治大学附属明治高等学校・中学校  
校長 金子 光男

## 「創部80周年を記念して～貴部の発展は本校・社会の支えなり」

本校に、待ちにまった野球部創立の歓声あがったのは、昭和6年6月16日のことでした。満州事変

の迫る暗い時代のかすかな足音を聞きながら、それを吹き飛ばすように、部員たちは「渇者の水につくが如く田無球場でバットを振りミットをとった」と「部史」ではその喜びを伝えています。その後80年の星霜を重ね、今日にいたります。この間、部を支え、指導に心血を注ぎ、また数々のエピソードと共に名選手たちを育ててこられたご関係のすべての方々に敬意を表し、この度の創部80周年を心よりお祝い申し上げます。

教育機関に属する野球部をはじめとした多様な団体では、いずれもそれぞれ特有の困難と悩みがありましょう。周囲の理解や勉学との両立の問題は、その最たるものであるやもしれません。しかし、そこに属し、部と一体となって3年間、6年間を過ごした部員にとっての体験は、その後の人

生の土台となり、また生きる糧として彼を支え続けるという点で、共通しているのではないのでしょうか。苦しみの向こう側にある喜びを知る、こうした経験も味わった者でしか分かりません。

このように考えれば、貴部のごとき諸団体の意義は、いかに強調してもしきれぬものではありません。たしかに学校教育では教師が主体である他はありません。が、しかし人生上に残すインパクトははるかにこれを凌ぐものであることは、誰でも知るところであります。特に現代の若人たちに欠けるといわれる忍耐力、協調性、指導力といった勉学以外の諸力を身につけさせるという点の教育力は、こうした班・部に及ぶものではないでしょう。

私は校長として、つくづく思います。学校とは教師、PTA、OB会、そして課外活動として設置された班・部活動が相まって、はじめて効果的な教育力が発揮されるのです。こうしたことを考えるだけでも、今後の貴部の発展は、本校のみならず、社会の存立にとっても、実にかげがえのないことだと存じます。



明治大学付属明治高等学校  
硬式野球部 監督 小林 千春

## 「甲子園出場を目指して」

我が伝統ある明治高校硬式野球部が、連盟加盟から80周年の年を迎えたことに、心よりお祝いし、お慶び申し上げます。

これもひとえに、多大な学校のご支援と、OB諸先輩並びに、多くの関係者の方々の応援があったからこそこの賜物と思っております。そんな記念すべき年に監督をさせて頂いている私は、皆様に感謝し、光栄に思っておりますと共に、責任の重大さも感じております。

今年3年目を迎えますが、47年前の全国選抜大会出場を最後に、我が母校は強豪校から伝統校と言われる様になりました。しかし、選手たち(1年生19名、2年生19名、計38名)は、伝統校の一員としてのプライドを持ち、毎日厳しい練習を重ね、「打倒強豪校」を合言葉に、春の都大会出場、

そして夏の選手権大会優勝を目指して、頑張っております。昨年8月には3泊4日の熊本遠征、12月末には明治大学野球部合宿所をお借りして行った冬季強化合宿の成果が、必ずこれから現れてくれると信じております。

皆様もご存じの様に、明治高校は5年前の校舎移転(調布)に伴い、男女共学となりました。女子マネージャーも加わり、チームの為に、選手の為に支えてくれております。

文武両道を目指す中、“夢遠く、道のり険しき甲子園”ではありますが、古き時代の良き伝統を伝えていながら、新しいものを取り入れ、融合させ、チーム一丸となって“甲子園出場”を勝ち取っていきたくと考えております。

この記念すべき80周年を好機として、皆様には、益々のご支援・ご鞭撻の程お願いを致し、ご挨拶にかえさせていただきます。また、OB諸先輩方々には、是非、グラウンドにお越し頂き、選手たちへの激励をお願い致します。



明治大学付属明治高等学校  
硬式野球部 顧問(部長) 前島 研二

## 「80年の伝統の重み」

明治高校硬式野球部創部80周年おめでとうございます。OBの皆様には、いつも現役部員のために多大なるご支援をいただき、有難うございます。

私は小林正三郎前校長から頼まれ、硬式野球部の顧問(部長)となって3年が経ちます。顧問(部長)として、輝かしい伝統を持つ明治高校硬式野球部に携わらせていただく以上は、その伝統の重みに恥じないように、グラウンドに足を運び、きちんと関わり、責任を果たすことが私の最低限の使命だと思っています。

私は「将来社会に貢献できる人間を育てる」ことを教育理念とし、日々の教育や部活動の指導にあたってきました。硬式野球部でも人間教育を第一とし、微力ではありま

すが、小林千春監督を支え、部員たちのため、また『明治高校をもう一度甲子園に』という夢の実現のために、少しでもお役に立てればと思っています。

私がバスケット部の顧問(監督)時代に、37年ぶりに関東大会に出場することができ、「明治高校バスケット部復活」とOBの方々に喜んでいただいたことがあります。私は何のとりえもありませんが、「何十年ぶりに出場」という強運だけは持っているつもりですので、その運を信じ「甲子園出場を決め、神宮球場で校歌を歌う日」を密かに期待しています。

部員たちも、小林千春監督を信じて、日々苦しい練習に耐えてよく頑張っています。OBの皆様には、今後も部員たちのことを温かい目で見守っていただき、励ましの声援を送っていただければ幸いです。



## 「生涯忘れられない明治高校との決勝戦」

福岡ソフトバンクホークス株式会社

取締役会長 **王 貞治**

明治大学付属明治高等学校硬式野球部の創部80周年、誠にありがとうございます。心よりお喜び申し上げます。受け継がれている魂で、更なる飛躍を……。応援しております。

さて、半世紀以上過ぎた今も、想い出すのは辛いのですが、あの時の試合のことは甲子園で勝ったことよりも強く記憶に残っております。

昭和33年8月3日。神宮球場。主将として臨んだ最後の夏は(2年の春の選抜大会で全国制覇)春・夏の全国制覇が成し遂げられるチャンスでもあったので非常に楽しみでした。内野席は、ギッシリつまった2万人の観衆。そのなかでワクワクしながらスタートしました。お互いに甲子園を強く意識していたのか(私もいつもより固くなっていたような気がします)チャンスがあったものの9回まで1対1。決着がつかず、とうとう延長戦に入りました。

12回表、早実にチャンス到来。一死から安打、四球。私の打順です。「ここぞ」と思い、初球を狙っていこうと打席に入り、思い切り振り抜きました。打球は一塁ベース上を抜き右翼を転々。二塁から走者が生還。次打者は四球。一死満塁。続く打者も左前打。二塁にいた私もホームイン。その後、スクイズも絡め計4点。5対1。早実リード。ダッグアウト上では、早実応援団が狂喜乱舞でした。

12回裏。私はマウンドに立った時、正直、これでいけると思ったことは確かです。一死を取り、あと2人で終わり……という気持ちはチームにもあったのではないのでしょうか。安打、味方エラー、安打であつという間に満塁。続く打者には力んでストレートの四球、押し出し、5対2。まだ3点差あるので……

とと思った時に交代を告げられ、右翼の守備に。交代した投手も、代わりっぱなの2球目を三塁打され走者一掃。同点。一死三塁。再びマウンドに。スクイズを警戒しながら投げた球は、左中間を破られ5対6。サヨナラ逆転負け。頭は真っ白に……。

サヨナラ打した選手は、主将だったことは憶えています。主将の宮澤くんとは今も交流が続いています。

決勝戦の翌日、甲子園に向かう明治高校野球部を東京駅に見送りに行きました。明治高校との一戦は、長い野球人生において「勝負の恐ろしさ」を肌で感じた、生涯忘れられない一戦です。

今、明治高校野球部も、夏の大会は我が母校・早実と同じ西東京に出場ということで、両校が一日でも早く甲子園を目指す決勝戦で、しのぎを削る熱い勝負を繰り広げることを祈念しております。



昭和32年春 第29回選抜高等学校野球大会で優勝した早実の選手達

## 「創部80周年を迎えて」

東京都高等学校野球連盟

理事長 **武井 克時**



明治大学付属明治高等学校硬式野球部 創部80周年、誠にありがとうございます。東京高野連と明治高校とは連盟創設の時より切っても切れないご縁がございます。特に、昭和24年に高体連から独立した新しい東京高野連（現高野連）を創設する際に島岡先生をはじめとする数名の先生方のご尽力で創設されたと聞いております。また、島岡先生は東京二代表（昭和49年）の実現のため日本高野連の佐伯会長と直接会談し、1月の大会運営委員会の席に井上先生（荏原高校）と熱弁をふるい承認されたという東京にとって歴史的な功績がございます。（東京都高校野球のあゆみ白球譜第一集・選手権大会に東西東京二代表に決定）

また、甲子園で数々の名勝負をジャッジされた審判の郷司裕氏の存在も忘れられません。島岡監督から当時明治高校のマネージャーをやっていた郷司氏に「審判をやれ！」と指名され、昭和24年からその後42年間にわたって東京高野連の審判委員長としてお世話になりました。現在の審判部の基礎を作っていたいただいたのも郷司氏のおかげです。両氏には物の無い時代に手弁当で大会運営にあたっていただき大変お世話になりました。神宮球場と同じ広さのつつじヶ丘の明大球場でのブロック大会の運営では、この他に昭和52年から野球部長になられた山脇信彦先生にもご尽力いただきました。現在の府中にグラウンドが移られてからふたたび

ロック大会を快く引き受けていただきました小林正三郎先生にも感謝を申し上げます。

明治高校野球部の活躍は数多くありますが、中でも昭和33年の夏の東京大会決勝戦、早実の5連覇がかかっていた試合で延長12回の表、早実が4点を入れ誰もが早実優勝と思ったその裏に明治高校のサヨナラ勝ちという劇的な試合がありました。早実の投手は王貞治氏（現ソフトバンクホークス 取締役会長）でした。明治高校が甲子園へ出発する日、王選手は東京駅に見送りに来ていたそうです。ジャイアンツを現役引退するとき「現役時代の野球人生の中で一番の思い出は？」と記者に聞かれこのゲームのお話をされたそうです。

甲子園からは少し遠ざかっていますが、再びこのような試合が高校野球ファンに見てもらえるような名門明治高校野球部の活躍を祈念しております。



東京都高等学校野球連盟  
事務局 横山幸子様



# 多年の宿望 打倒早実 遂に成る

明治大学付属明治高等学校 昭和27年卒 硬式野球部OB  
 明治高等学校 硬式野球部元監督 **松田 龍太郎**

明治高校硬式野球部創部80周年を迎えられたことは、我々OBにとって、大きな誉れであり、喜びでもあります。全国高校野球の球児達が憧れる聖地甲子園球場に現役3回、監督2回の春夏計5回も出場させて頂いたことは、故島岡御大、故別府氏をはじめ、野球部先輩方のお陰だど何時も感謝しております。

先日、明球会一泉会長より「思い出の試合」というテーマの依頼を頂き、現役、監督時代に数多くの好試合をして参りましたが、やはり一番印象に残り今も脳裏に刻みこまれているのは、第40回全国高等学校野球選手権大会、東京都予選対早実との決勝戦です。

両校とも春の選抜大会に出場し、早実は2回戦敗退、明治高校は準決勝で中京に延長12回1対2でサヨナラ負け。帰京後は、1日の休みもなく、夏の大会に向かって打倒早実を目指し、厳しい練習に明け暮れ、奇しくも、8月3日、神宮球場で昨秋の大会で1対3で敗れた早実と2度目の決勝戦となった。

当時、甲子園以外の全国地方予選では初めての2万人の大観衆が観戦するなか、早実先攻で午後1時試合開始。5回表早実が1点を先取り、6回裏に明治高校が1点を返し同点とするも、打棒振るわず苦戦。試合は11回まで早実王投手、明治高校下田投手の投げ合いで坦々と進み12回を迎えた。小柄な下田投手に疲れが見えたのか王投手の二塁打を含む3安打を集中され、4点をリードされた。得点は5対1。観衆は勝負ありと見て空席が目立つようになった。一方、明治高校の選手達は悔し涙を流しながらベンチ前に集合。1点だけでも取ろうと激励した。一死後、渡辺が内野安打で出塁。その

早実	000	010	000	004	5
明治	000	001	000	005	6

昭和33年第40回全国高等学校野球選手権大会 東京大会決勝にて逆転サヨナラで勝利した時のスコア

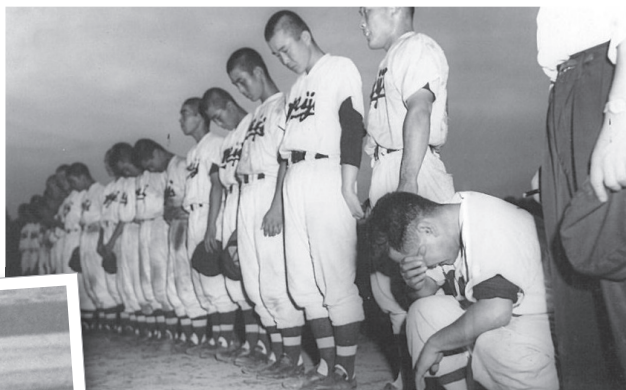
後9番下田に代わる代打古庄が併殺をさせた二塁手の失策と1番金子の右前安打で一死満塁。2番野村が四球を選び押し出しの1点。ここで王投手が降板。リリーフ河原田投手が登板。直後3番西広が強烈な中越の三塁打を放って同点。一死三塁となり再度王投手が登板した。4番宮澤主将の打席の時、スクイズ、スクイズと言う声がネット裏の方から盛んに聞こえた。しかし、この試合で「打て」「待て」のサイン以外は何一つ使っていなかった。それだけに躊躇した。結局出したサインは「グー」「打て」だった。王投手もスクイズを警戒し、球威が落ちたところを宮澤が見逃さずに左中間深くと破り、6対5で逆転サヨナラ勝利し、念願の打倒早実となった。

当時の決勝戦は予選中から雨天中止が多く、3日遅れの全国でも最も遅い決勝戦であっただけに全国の注目の的だった。翌日の朝刊、スポーツ新聞では「明治 早実に奇跡の大勝利」「明治の粘り強さが早実を下す」「明治奇跡の逆転勝利」など、色々な見出しとなった。ただ、12回の攻防で悔し涙を嬉し涙に変えた当時の選手達に今も称賛の拍手を送りたい。

平成24年1月17日 記



左は松田氏、右は宮井氏



松田監督の目に泪



逆転サヨナラの瞬間 中央3人の右が三塁打を放った西広、真ん中が野村、左が松田監督



同点三塁打を放った西広氏の思い出の記事 (昭和38年7月28日 朝日新聞)

# 甲子園出場と高校3年生その時

明治大学付属明治高等学校 昭和29年卒 硬式野球部OB

## 浮貝 文夫

時は昭和28年8月14日、まさに試合開始のサイレンと共に主審の右手が上がろうとしていた。奇麗に均されたマウンド。念願の投手板に右足をつけた。そしてプレーボール。不思議に過去の何度の試合経験でも、必ずと云っていい位に第1打者の第1球を投げる時だけあじわうあのつま先が震えるのが、何故か起こらずに、スムーズに右打者のインコース低めに投げられ、高らかにストライクのコール。その後は実に気持ち良く投げられた。この初戦は大会2日目の第3試合。予選では3割を打っていた“桜島打線”と云われた甲南高校(東九州代表)だったが、12奪三振4安打に封じ5対0と勝利。勿論この勝利はチーム全員で勝ち取ったもの。いやその背景には学校の理解、父兄の応援、諸先輩の厳しかった指導等、各自の弛まぬ日々の努力等々、個人ではなし得ない力が加わって、成し遂げられたと感謝している。

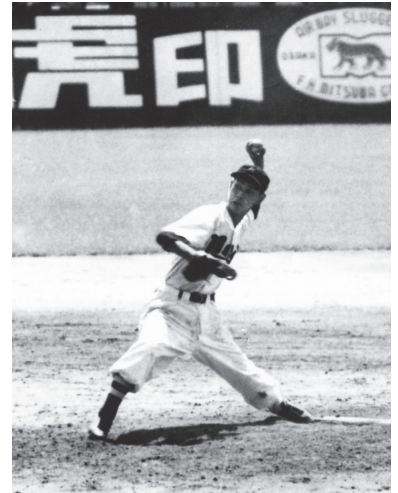
第2回戦は対熊本高校(西九州代表)を7対2、第3回戦は対静岡商業(山静代表)を2対1で勝ち進み、第4回戦は準決勝となって対松山商業(北四国代表)。この試合は0対2で敗退した。残念ながら力およばず。しかし予想もしていなかったベスト4入りが出来、大変すがすがしい気持ちで、これが実力と感じた。全ての試合で先発完投、そして連投もあり、現在振り返っても、軽い体重で細身であった自分自身がまったく信じがたく、奇跡としか思えてならない。ただ云えることは、ここまでに至る過程で自分なりに出来る努力を惜しまなかった事が、この結果に繋がったと思っている。

また、これより先に甲子園出場迄の大切な前段があった。それは夏の東京大会前の春に、3年生を主体としたチームが縁あって、当時関西では何回も甲子園に出場している名門平安高校(京都)と練習試合ができたことだ。試合球場に行くと、なんとそこにはおよそ100名以上

の部員が居るのに驚くやら、呆れるやら、まるで当時の大学なみ。最初平安高校は主力選手をベンチに温存した。その後戦況が不利になると急遽主力選手が出場したが、その時にはすでに遅く、わが明治高校が勝利した。

この試合で自信をつけたことが、夏の東京大会で優勝し、甲子園出場が出来た大きな要因だったと思う。

秋には東京代表として四国徳島での第8回秋季国体に出場した。昭和28年10月23日に高松商業と対戦し、4対0で勝利した。翌24日は徳島商業と対戦し、延長10回で残念ながら1対4で敗れたが、記念すべき天覧試合となった。



甲子園に立った浮貝投手



昭和28年夏 甲子園出場時の選手達

### 【後記】

高校1年生時 島岡監督(後の明大野球部監督)

高校2年生時 迫畑監督(後の太洋ホエールズ監督)

高校3年生時 白井監督(夏の東京大会及び甲子園出場時の監督で当時は明大野球部4年生在籍中)

野瀬監督(四国徳島市の国体にて東京代表出場時の監督で当時は明大野球部4年生在籍中)

以上4名の監督に熱心な指導を受けたが、どの監督からも「プレーをするのはあくまでも君達自身なのだ」と云われた。全くその通りである。オーケストラの演奏に例えれば、タクトを振って指揮するのは監督、演奏するのは選手、いかに良い響きをどの音管とも調和させて指揮者を満足させるか、それにはそれぞれの演奏者がたゆまぬ努力をしなければならないだろう。

青春は各人一生の内には決して長くない時間しか訪れてないであろう。それを大切にして、是非とも後々迄、満足出来る思い出を作りたいと願っている。

## 早実 王選手との運命の対決

明治大学付属明治高等学校 昭和34年卒 硬式野球部OB

### 宮澤 政信

私が明治中学校に入学したのが、昭和28年、戦後の混乱期を経て、世情も落ち着きつつある頃でした。私の兄が明治中学の野球部でプレーしていたので、家でよく野球の話をしてくれました。私も明治中学で野球をやるのが夢でした。当時の監督は北島善次郎先生でした。千代田区の代表になるのは当たり前で、都の大会でも明治中学は常に優勝を争う強豪でした。私達が中学3年生の時には、春と夏の都大会で優勝しました。現在、新宿副都心の高層ビルが立ち並ぶ一角に東京ガスのグラウンドがあって、そこで大会が開催されました。開会式でひときわ身体の大きな目立つ選手がおりました。その人が後年の世界の王さんでした。中学生時代の王選手のチームはそれほど強いチームではなく、1回戦で敗退した為、直接対決はありませんでした。彼は早実へ進学しました。私達明治中学のメンバーは、全員明治高校へ進学しました。

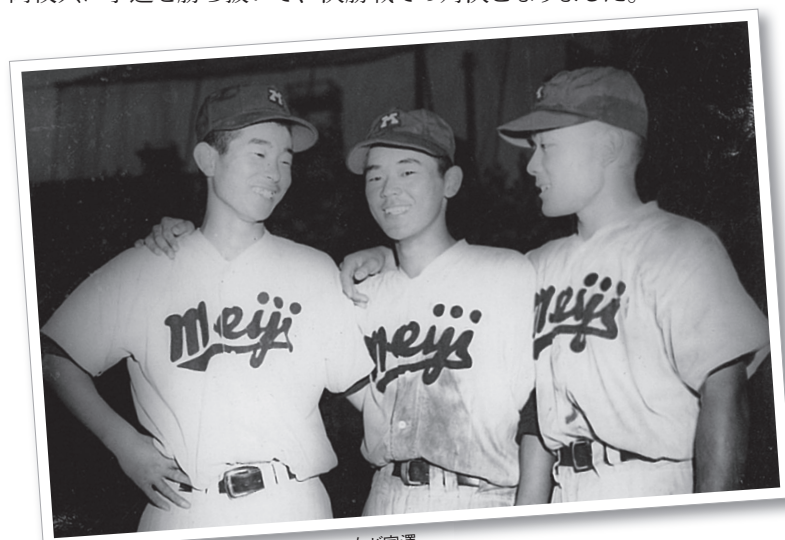
高校2年生の時は、決して弱いチームではありませんでしたが、甲子園には出場出来ませんでした。そして昭和33年、高校生活最後の年を迎えました。春の選抜は前年秋の新人戦の成績で決められますが、新人戦では、決勝戦で王投手を擁する早実と対戦して、1対3で負けました。もう選抜出場は駄目だと思ったのですが、この昭和33年という年は、第30回の記念大会ということで、関東東京のどちらか強い方へ一校増枠が決定しました。その年の早実のチーム力は圧倒的で、その強い早実と1対3で良い試合をしたと評価され、明治高校も早実と共に東京代表として春の選抜大会に出場することができました。甲子園では準決勝まで進んだのですが、中京商業に0対1で負けました。

そして、夏の大会を迎えました。“王打倒！”の一念で、3年間松田監督の下、日本一と言われた猛練習に耐えた我々です。決して負けるわけには参りません。昭和33年8月3日、両校共に予選を勝ち抜いて、決勝戦での対決となりました。

試合の結果につきましては、記録に残っておりますのでここでは触れませんが、「俺たちには何か運命の神様が味方してくれていたのだ」と、後年強く思うようになりました。主力打者で3番を打っていた田中君が夏の大会直前の練習中に足を骨折して出場不可能に、エースの下田君は選抜大会での無理が祟って肘を痛めて、大会直前までボールを握ることもできず、下級生の小田島、大林、寺岡に頼らざるを得ない状況でした。しかし、不思議と代わった全ての選手が大活躍をして勝利に貢献してくれました。

延長12回裏、1対5とリードされた試合を、3番バッターの西広君が、王投手をリリーフした河原田投手から、満塁走者一掃の三塁打を放って、5対5の同点とし、一死走者三塁で4番の私に打順が廻ってきました。すると又ライトから王選手が再びマウンドに立ち、私との対決となりました。それまで私は王投手から4打数ノーヒットと完全にひねられていました。私が打てないだろうと思われていたので、ベンチからはスクイズと言う声も出ておりました。しかし、松田監督は「宮！お前に任したぞ」と一言でした。最後は開き直りです。1球目がボールで、2球目に良いボールが来たと思ったので、無心にバットを振ったら、それが左中間を抜く逆転の一打となりました。

野球を離れてもう45年が過ぎますが、いまだにこの一打が話題になるのは、打った相手が世界の王さんだからこそだと感謝しております。



昭和33年当時 左が西広、中央が下田、右が宮澤



昭和33年夏 甲子園にて 左が下田投手、右が宮澤

## 猛練習に耐えた充実の3年間

明治大学付属明治高等学校 昭和38年卒 硬式野球部OB

**山田 正雄** (現北海道日本ハムファイターズ GM)

硬式野球部創部80周年おめでとうございます。選抜甲子園大会開催中のため、出席できず申し訳ありません。今、こうして一日中甲子園におりますと、高校時代、真っ暗なグラウンドで校歌を毎日歌ったことを思い出します。

80年の節目にあたり、私自身、高校3年間をあらためて振り返ってみました。甲子園には出場できませんでしたが、あの3年間が私の人生を大きく左右したことは間違いありません。

神宮球場に近い青山中学校に通っていた私は、チームメートとよく六大学野球を見に行っていました。当時の私にとっては、甲子園やプロではなく、六大学野球でプレーすることが一番の夢でした。それで明治高校に入ることに決めたのです。

その4年前には、明治高校と早実の伝説の試合がありました。延長12回表、王さんがいた早実に4点入れられて万事休すかと思いきや、その裏に明治高校が5点を奪い、ひっくり返して甲子園を決めた試合です。その試合を見て、明治高校に入学した選手も多かったのですが、とにかく六大学野球しか頭になかった私は、明治高校硬式野球部がどうチームかよく知らずに入学したのです。

入った途端、後悔しました。それもそのはず、伝説の男と言われた松田龍太郎監督が指導していたからです。まさに天国から地獄です。青山中学での楽しい野球とのあまりのギャップに、初日から野球が嫌いになってしまいました。甲子園に出たいという気持ちよりも、毎日、野球部を辞めることばかり考えていました。4時間ぶっ通しの猛ノックや1日100球の投げ込み……。海水浴でにぎわう真夏の江の島海岸を

ユニフォームで何時間も走らされ、嫌になって、途中で自宅に帰ったこともありました。

1年秋の準決勝で、日大二高に負けた時には、松田監督から眼前に日本刀を突きつけられました。平凡なライトフライを私が落球したのですが、勝っていれば選抜に出場できたのです。エースとして出場した2年夏の準決勝・帝京戦では、二塁でスパイクされて病院に担ぎこまれて終戦。もう少しで手が届きそうで、結局甲子園出場はかないませんでした。

考えてみれば、いい思い出というものはありません。毎日の練習が地獄のように思え、常に逃げ出したい気持ちを持っていました。しかし、退部することばかりを考えていた私が、3年夏の5回戦で当時田淵のいた法政一高に負けた時には、悔しくて、悔しくて、押し入れてこっそり泣いていたのです。あれだけ頑張ったのだから、やはり甲子園に出たかったのです。

辛かった高校3年間、反骨心を持って耐えたことが、その後の人生に生きていて実感します。卒業後は家庭の事情もあり、大学進学を断念して、プロの世界に飛び込みました。とても厳しい世界ですが、あの3年間を思えば全く苦ではありませんでした。サラリーマンを経験した後、再びスカウトとしてプロ野球の世界に戻り、68歳の今もこの世界で生きることができているのは、高校3年間があったからです。

入学時15人いた同期は、卒業時には5人になっていました。ともに生き残った同期はずばらしい仲間、今でもつきあがあります。猛練習で私たちをすごした松田監督

とは、毎年春と夏の甲子園で再会します。ネット裏で席を並べて、一緒に高校球児の動きを追っていると、不思議な気持ちです。穏やかな二人の様子を他球団のスカウトがいつも羨ましそうに見ています。

甲子園で勝利の儀式を見る度に、3年間歌い続けたあの校歌を歌いたかったという思いがこみ上げてきます。今プレーしている選手の皆さんには、充実した3年間を送ってほしいと思います。そして、願わくは、甲子園であの校歌を聞かせてください。



青山中学校時代のチームメート



## 選抜甲子園大会出場の思い出

明治大学附属明治高等学校 昭和41年卒 硬式野球部OB

### 大澤 富次

‘11年クリスマスの近くに、小泉先輩から電話をいただき、明治高校硬式野球部創部80周年の記念事業として、高校3年間の思い出に残る試合についての原稿依頼を受けました。

実際に3年間の試合について考えてみると、最初に思い付いたのは、昭和39年夏の東京大会の準決勝、対早実戦でした。試合は0-2で負けてしまったのですが、当時の早実投手に右・新藤、左・織田の両エースを、捕手には大矢、遊撃手に荒川(共にヤクルト)と、甲子園でも優勝が可能なチーム力を持った強豪でした。3年間を通して、これだけの試合が出来たことが、最も印象に残ったといえるかも知れません。

夏の大会が終わった次の日から新チームのスタートとなりました。この時の自分の気持は、“夏の練習は長くて暑いな”という思いでしたが、それとは裏腹に、練習試合のスケジュールがどんどん組み込まれました。夏休みの終わり近くには、恒例の関西遠征があり、浪商、明星、興国、桜宮、花園、ラストに平安と新チームとしての試金石とも言える試合が続きました。ご存知の通り、我が明治高校の監督、大溪弘文氏は京都平安高校出身で全国制覇も経験している方です。とりわけ平安との試合は絶対に負けられないものとなります。1日目、2日目と連敗し、何と3日目は雨という状況に追い込まれました。チームの全員の気持はこのままでは東京に帰れない、雨よ上がってくれと祈るような気持で天候の回復を待ちました。幸運にも午前中には雨も上がり、平安高校の皆さんの助けで3日目のスタートが可能となりました。“今までとは何かが違う”そんな感覚でゲームは進み、連勝し、どうにか監督さんに怒られないですみそうな形となりました。

いよいよこの後は、春の選抜の予選を迎える準備が整って

いきます。9月第2週から16ブロックに分かれた東京都一次予選及び本大会と進んで行くのです。ブロック大会終了後、本大会の抽選で対戦相手が決まり、ベスト16からの勝ち上がり予想で準々決勝は佼成学園、準決勝は帝京、決勝は荏原と想定しました。佼成・久保田、帝京・臼井、荏原・和田と3人の左投手の攻略がカギとなりました。3投手の共通点は外からのカーブでカウントを取り、内角へのクロスファイヤー及び内角ひざ元へのスライダーの勝負球です。明治高校としては古川以外の右打者は外からのカーブに的をしぼり、ボールになるスライダーを見逃す作戦が立てられ、1か月間徹底して練習に明け暮れました。

準々決勝は佼成学園に延長11回4-3の勝利、準決勝は帝京に7-0のコールド勝ち、そして決勝は荏原に0-5で敗れて、甲子園の夢も消えたかと思われましたが、幸運にも選抜され7年ぶりに出場の間際を得ることが出来ました。

昭和40年3月27日、第37回全国選抜高等学校野球大会の開会式を迎え、翌28日には奈良県代表田原本農に、4-1で勝利し、2回戦ではベスト8をかけて、岡山県代表岡山東商に、0-1、9回サヨナラ負けの結果に終わりました。ちなみに、岡山東商は今大会優勝し、投手平松は大洋(現横浜)のエースとして巨人キラーとなり、名球会入りする大投手となりました。

結びに、明治高校の校旗が再び甲子園に上がることを願い、現役選手皆様のご健闘をお祈りいたします。



昭和40年春 第37回選抜高等学校野球大会出場時の写真





## 幻の甲子園

明治大学付属明治高等学校 昭和53年卒 硬式野球部OB

### 土肥 誠

明治高校硬式野球部創部80周年おめでとうございます。私も卒業して30数年経っておりますので記憶が曖昧な部分もありますが、思い出の試合ということで、一筆寄稿させていただきました。

昭和51年秋、新人戦のブロック大会を勝ち抜き本大会へ進出致しました。皆様もご存知の通り本大会での成績は翌年の選抜甲子園大会への推薦出場がかかっており、ましてやこの年の夏の甲子園で桜美林高校が初出場で全国制覇を成し遂げたこともあり、東京のレベルが見直されているという状況でもありました。本大会1回戦佼成学園戦は投打が噛み合い7点をとり快勝しました。当時は決勝で当たるであろう早実が大本命でしたので2回戦の早稲田高校戦を甘くみており、1対0の辛勝でした。早稲田の佐藤投手はその後早大に進学し、捕手に転向した後社会人で日本代表にも選出された素晴らしい選手でした。高校卒業後、早稲田高校から明治大学に進学した同期の森田さんには「秋、明治高校に負けた試合が一番悔しかった」と言われたことを思い出しました。後日談ながら早稲田高校には、翌年の夏の予選できっちり借りを返されました。

さあ、いよいよ準決勝桜美林高校戦です。夏の優勝経験のある選手も残っており強豪です。この試合が私の『思い出の試合』になりました。準決勝前日、練習を終えた高校の合宿所に、大学の島岡御大がフラッとみえられ「いいかぁ！おまえら！明日は絶対勝て！！勝ったらオレが甲子園に連れてってやる！！」と大きな声で言われたのをハッキリ覚えております。今考えれば、当時御大は選抜大会の選考委員でもあり絶大なる力を持たれていたのでしょうか。

私たちが、この試合に勝てば甲子園に行けるという思いとともに試合は始まりました。両校エース(明治:大橋、桜美林:小野寺)の投げ合いで1対2のまま終盤へ。8回表、ここでこの試合の大ヒーロー！？3番浅見がレフトスタンドへ起死回生の同点ホームラン。膠着状態が続く2対2で迎えた延長10回表に『事件』は起こりました。先頭の3番浅見が出塁し無死一塁。ここでこの試合ノーヒットの私が送りバント。相手投手が二塁へ送球したが野選で無死一・二塁。1点取ってその裏を守れば勝利という場面で、5番大橋。左打者で三塁方向にはバントがしやすい大橋に卯木監督はなんと“打て”のサイン。大橋は期待に応えセンター右にクリーンヒット！！二塁ランナーの浅見は無死ということもありややスタートは遅れながらも三塁を回ってホームに突入！！ボールはカットに入ったセカンドにやっと届いたところ。だれが見てもタイミングはセーフ。二塁ベースを回ったところで私は「よし！1点取った。これで勝てる」と思いました。神宮第二球場に詰め掛けた明治の大応援団も全員が立ち上がりわれんばかりの歓声が沸き起こりました。



昭和51年秋 対桜美林戦 円陣で気合いを入れる

さて肝心のヒーロー浅見はというと、ホームベース後方2mくらいのところにしゃがんでおります。んっ！何が起きたんだ？敵味方の歓声で包まれた球場が徐々に静かになっていきます。その時、二塁手が捕手にボールを転送しホームベースに近づく浅見君にタッチしたではありませんか。高らかに響き渡る主審の『アウト〜〜！』のコール。ホームを駆け抜けようとした浅見は相手捕手のブロックしていた足につまづき転んでいたのです。それを見ていた主審はホームベースを踏んでいないとしてコールせず黙って見ていたようです。次打者の加藤も間近でそれを見ており、「浅見、万歳でもしながら早くベンチに戻れっ！」と心の中で叫んでいたそうです。結局2対2のまま11回裏、最後は犠牲フライを打たれ2対3で負けました。桜美林高校は決勝戦で早実に負けたものの、言うまでもなく翌春の選抜大会に出場しました。二塁ベース上で甲子園の鳥を一瞬触ったような気がしたのは幻となりました。あれから数十年がたった今でも、『浅見が転んで甲子園に行けなかった！』vs『俺(浅見)が同点HRを打たなかったらあの展開はなかった！』との言い合いを肴に楽しい酒を酌み交わしております。

大学、社会人でもレベルの違いに驚くと同時に「こいつらに負けてなるものか」、「俺は中学からMeijiのユニホームを着ているんだ。明治10年生をなめるな」という気持ちを持ち続けておりました。幸運にも大学、社会人で日本代表として世界と戦えたのも明治で培った『人間力』のお陰だと思っております。中学時代の田中徹太郎監督、高校時代の卯木敏夫監督、そして大学の島岡吉郎監督。尊敬できる恩師に恵まれ、なんとか社会に通じる人間として育てていただいた事に大変感謝しております。

明治高校野球部の大いなる歴史とともに、また81年目の歴史を作る現役選手の皆さん、『Meiji』の誇りを胸に頑張ってください。

今、大阪に居り春夏の甲子園大会が始まると仕事の合間を見ては球場に足を運び高校球児を応援しております。近い将来「白雲なびく〜」の校歌が甲子園に流れる事を信じてOBの一人として微力ながら応援させていただきます。

# 奇跡の大逆転 明治野球

明治大学付属明治高等学校 昭和56年卒 硬式野球部OB  
飯野 善明

明治高校硬式野球部の戦歴の中で、奇跡の大逆転と言えば、昭和33年8月3日の王選手擁する早実との決勝戦を思い出す方が殆どだと思いますが、私たちにも忘れられない試合がありました。昭和55年7月24日の東東京大会3回戦の対関東一戦です。

当時の関東一は前年の東東京大会で準決勝まで進出した強豪チームで、戦前の下馬評では圧倒的に関東一が有利と言われておりました。案の定試合展開は、1回表、明治高校が一死満塁の好機を逃したのに対して、その裏、関東一に満塁ホームランを打たれ、4点を先制されました。続く2回にもエース須藤が併殺を防ぐ為に、二塁ヘスライディングした際に、利き腕の右手に相手野手の送球が当たり負傷するアクシデントが起きました。リリーフした主将野田は元ターエースで、エース須藤に次ぐ投手が居ないことから夏の大会直前から練習をした急造投手でした。公式戦初登板となり、連打を浴び、3点を加えられ、2回を終わって0対7と一方的なリードを許しました。球場のあちこちから関東一のコール勝ちがささやかれ始めましたが、何故か私たちは負ける気はしませんでした。今振り返ると、それは3年間明治野球をやってきたからだと思います。時代による環境の違いはあったかもしれませんが、厳しい練習で最後まで諦めない根性が自然と植えつけられたと感じております。

3、4、5回に1点ずつを返し、そして6回には一死一塁から、1番鈴木がライトポール際にツーランホームランを打ち、2点差に詰め寄りました。鈴木は1番打者で、誰もが予想しなかった公式戦初ホームランでした。その瞬間、ライトスタンドに向かって神風が吹いたと今もチームメートは言っています。これに勢いづき、痛打をたたみ掛けて二死二・三塁とし、5番木村の一・二塁間を抜くタイムリーヒットで、一気に同点と迫りました。これで行けると思いましたが落とし穴がありました。7回裏、関東一の攻撃は二死一・三塁となり、遊撃手飯野(私)のエラーにより貴重な勝ち越しともいえる点を与えてしまいました。今までの流れを断ち切り、試合を九



昭和55年夏 監督、コーチ、選手達 前列中央が田中監督(つっじヶ丘にて)

分九厘決めるあまりにも大きすぎるエラーでした。ベンチに戻った私は申し訳ない気持ちで沈んでおりましたが、エース須藤の「取り返せばいいんだよ！」との一言に救われました。

最終回、先頭の木村がレフト前ヒット、つづく吉本も三塁線を強烈に抜く二塁打を打ち、無死二・三塁の一打逆転の場面を迎えました。一死後8番伊木が打席に入った時、まずスクイズで同点だと思いました。伊木は初球を投手左にバントを決め、三塁走者木村がホームインで同点。ここまでは想定通りでしたが、この打球を相手投手が一塁へ送球する間に、二塁走者吉本が一気にホームを目指し走ってきました。タイミングは微妙でクロスプレーとなりましたが、吉本の左手が捕手のタッチを掻き潜ってベースを触った瞬間、主審の「セーフ」というコールが球場全体に響き渡りました。

土壇場で試合をひっくり返し、9回裏も3回から再びマウンドに戻り力投を続けていた須藤が、無難に三者凡退に打ち取り、輝かしい1勝をもぎ取りました。試合後ロッカールームに戻る時に、次の試合の高校の監督が選手たちに「これが明治の野球だ」と言っていたことも印象に残っております。

このような素晴らしい試合が出来たのは、当時の選手全員ของทีมワークはもちろんですが、弱いチームを奮い立たせてくれた田中徹太郎監督、熊倉コーチ、奥村コーチの熱い指導のおかげであったと思っております。

明治	001	114	002	9
関東一	430	000	100	8

**明大明治**

須藤 貞一③  
 伊木 敏也③  
 野田 宏幸③  
 佐藤 尚司③  
 藤井 仁③  
 飯野 善明③  
 木村 祥③  
 鈴木 範之③  
 出川 俊昭③  
 金井 隆幸②  
 松本 一彦②  
 松本 貴男②  
 三浦 匡希②  
 吉本 剛一②  
 小野 修一②  
 友田 智①  
 山崎 晴貴①  
 山口 淳一②  
 山崎 信彦②  
 監督 田中徹太郎

△千代田区墨堤

**関東一**

藤平 威一彦①  
 田村 裕二③  
 伊藤 守康③  
 西 明良③  
 西 廣瀬 靖③  
 松本 靖一③  
 田中 豊田 達利③  
 高橋 八郎③  
 義明①  
 根岸 晃③  
 松本 剛至①  
 能城 豊②  
 鈴木 達也③  
 武藤 繁雄①  
 原 創③  
 山田 利幸①  
 新井 勝利①  
 一之木 幸男③  
 部長 渡辺 泰  
 監督 安西 宏之

△千代田区松島



上：昭和55年夏  
東東京大会3回戦  
対関東一戦のスコア  
 左下：昭和55年夏  
明治高校、関東一の  
登録メンバー  
 右下：対関東一戦  
9回裏最後の守り

## 忘れられない兄弟校対決

明治大学付属明治高等学校 平成21年卒 硬式野球部OB  
元主将 西澤 翔

硬式野球部創部80周年おめでとうございます。平成21年卒の硬式野球部で主将を務めさせていただいた西澤翔です。

私たちには忘れられない試合があります。それは、平成20年7月11日に八王子市民球場で行われた第90回全国高等学校野球選手権記念大会の2回戦、兄弟校である明大中野戦です。

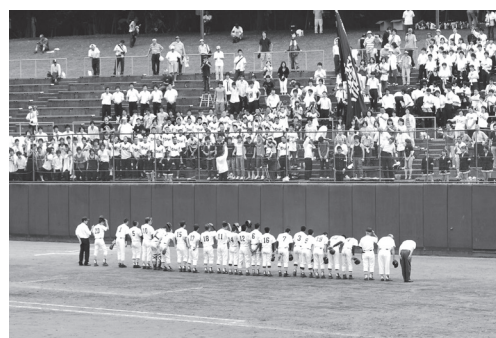
1か月前、組み合わせの抽選結果を聞いた時は「早く試合がしたい」という待ちきれない思いでいっぱいでした。なぜなら、私たちの代では毎年秋に開催される明治大学付属の三校対抗戦が雨天で中止となってしまう、付属同士での試合が出来ずとも残念な気持ちでいましたので、このカードを引き当てることができとても楽しみでした。とは言うものの、楽しみな気持ちばかりでもありませんでした。私たちの最後の大会であり、その初戦が昨年秋でベスト4という結果を残している強豪校だったからです。私達は兄弟校の中ではベストの成績を取めたいと、常にライバル視して練習してきました。故に、絶対に負けられない試合でした。さらに、澤田監督と岡崎コーチが50年前、夏の大会で明大中野に敗れていたと聞き、一層負けられないという気持ちでいっぱいでした。その日から、練習にもより一層身が入りチームも一つになっていきました。

迎えた試合当日、八王子市民球場は多くの観客で埋め尽くされました。グラウンドインと同時に、キャプテンとして何と少しでも勝たなくてはいけないというプレッシャーが重くのしかかり、いつも以上に緊張感が高まりました。また観客の声援もプレッシャーに感じるようになり、普段通りのプレーをするのが容易ではなくなってきました。そして試合開始。先発ピッチャーの池田航一の様子がおかしく、四死球を連発し出塁を許し、押し出しを出すなど初回到3点をとられてしまいました。しかし、この悪い流れのまま試合が終わっ

てしまうのかというような思いや焦りは全くなく、反対に、まだ初回だから付け入るすきは何度かあると確信していました。その予想通り、相手の気持ち少し緩んだのか、序盤に連続でチャンスを迎え、そのチャンスをしっかりとものにして確実に点をとっていきました。そして3回、3番の吉野達也のホームランでついに勝ち越しに成功しました。そこから両校の投手が踏ん張り、中盤は硬直した展開となりました。この時に私は勝っていたものの、妙に変な気持ちになりました。中盤でダメ押しができず終盤を迎えてしまったため、まだ流れはこっちにはないのではないかと感じていました。選手たちには決して最後まで気を抜かず集中するように何度も声をかけるようにしました。そして迎えた最終回、抑えれば勝ちという場面で犠牲フライを打たれ同点に追い付かれてしまいました。そしてその裏、点を取らなければ流れは向こうに行ってしまうと感じ、何と少しでもここで決めようと円陣を組んで気合を入れました。そして満塁のチャンスを作り、代打の丸山拓郎がサヨナラヒットを放ち試合に終止符を打ちました。勝利の瞬間スタンドからは大歓声が沸き、そこで勝利の実感を得ることができました。私自身はチャンスに 대응することができず、特に最終回の満塁のチャンスではフライを打ち上げてしまうなど不甲斐無い結果に終わってしまいましたが、チームが勝利することができて本当にうれしかったです。また、監督・コーチの50年前のリベンジを果たすことができ、この試合が私にとって忘れられない一戦となりました。



平成20年夏 明大中野戦に勝利 喜ぶ選手達



明大中野戦に勝利し、応援席に御礼



勝ち越しホームランを放った吉野達也





## 『野球部の誕生』

明治高校硬式野球部の歴史は昭和6年に始まった。「六十年の歩み」(発行/明治大学付属明治中学高等学校)にその史実が明確に記載されている。以下、それを引用・要約して紹介する。

昭和初期、国内では未曾有の金融恐慌、国外では満州事変が迫る暗い時代を感じながら、この重苦しさを払いのけるかのように、スポーツ、特に野球に対する関心が非常に高まって来た。東京六大学野球、甲子園中等学校野球等の隆盛は実に目を見張るものがあった。

明治中学は都心にあつて、比較的校庭が狭く、野球に不適であったばかりでなく、当時進学一筋に進んでいた校内には、野球に対する理解は難しい状況にあった。しかし、野球に対する関心は高まり、遂に明治中学にもその波が押し寄せた。当時の学校日誌には次のように記録されている。

昭和6年6月15日 田無グラウンド建設決定着手  
 同 16日 田無グラウンド休憩所落成  
 同 19日 本校野球部、朝日新聞社後援東京府中等学校野球連盟に加入決定

更に学友会誌第15号に、当時の部員の気持ちが記されている。「長い間、待ちに待った明治中学野球部が、遂に誕生したことは、我らにとって実に愉快な事であった。何しろ校庭があつて野球の出来ない悲しさに永年嘆いていた全校野球愛好者は勿論、卒業生、先輩諸氏に至るまで、明治中学野球部の誕生を喜び、祝福した。野球部員はあたかも渴者の水につくが如く田無に奔ってバットを振りミットをとった。そしてしばしば熱球は快音を残し遠く夕映えの雲に入った。」

野球部はこうして誕生し、年々盛んになって、好選手も出したが、チームとしては上位に進出することが出来ず、密かに部員が抱いていた甲子園大会出場の夢が実現するにはいまだ少し時間を要した。戦後明治高校野球部が春夏合わせて7回も甲子園に出場したことを思えば、当時の野球部は余りにも小さな存在であったが、我が明治高校硬式野球部の輝かしい歴史がここから始まった事はまぎれもない事実である。

	春季大会	夏季大会	秋季大会
昭和6年		第17回全国中等学校優勝野球大会(東京大会) 2回戦 明治中 ● 5-21 目白商	
昭和7年		第18回全国中等学校優勝野球大会(東京大会) 2回戦 明治中 ○ 15-4 京北実 3回戦 明治中 ● 0-17 早実	
昭和8年		第19回全国中等学校優勝野球大会(東京大会) 2回戦 明治中 ● 6-20 日大二中	
昭和9年		第20回全国中等学校優勝野球大会(東京大会) 2回戦 明治中 ● 4-6 京北実	
昭和10年		第21回全国中等学校優勝野球大会(東京大会) 2回戦 明治中 ● 3-6 順天中 敗者復活戦(順天中に無資格録選手がいた為) 明治中 ○ 15-5 杉並中 3回戦 明治中 ● 1-12 日大三中	
昭和11年		第22回全国中等学校優勝野球大会(東京大会) 1回戦 明治中 ○ 11-0 獨協中 2回戦 明治中 ○ 36-0 名教中 3回戦 明治中 ○ 6-3 府農林 4回戦 明治中 ● 1-7 日大一中	
昭和12年		第23回全国中等学校優勝野球大会(東京大会) 4回戦 明治中 ○ 9-8 京王商 5回戦 明治中 ● 1-8 慶応普通	
昭和13年		第24回全国中等学校優勝野球大会(東京大会) 4回戦 明治中 ○ 14-1 京北実 5回戦 明治中 ● 2-16 日大三中	

	春季大会	夏季大会	秋季大会
昭和14年		第25回全国中等学校優勝野球大会(東京大会) 4回戦 明治中 ● 0-27 早実	
昭和15年		第26回全国中等学校優勝野球大会(東京大会) 4回戦 明治中 ● 2-12 昭和一商	
昭和16年		第27回全国中等学校優勝野球大会(東京大会) 2回戦 明治中 ○ 1-0 順天中 3回戦 明治中 ● 1-12 府一中	
昭和21年		第28回全国中等学校野球大会(東京大会) 1回戦 明治中 ○ 24-1 目黒工 2回戦 明治中 ● 9-10 都五中	
昭和22年		第29回全国中等学校野球大会(東京大会) 6回戦 明治中 ○ 10-0 名教中 7回戦 明治中 ○ 8-0 東京中 準々決勝 明治中 ● 1-2 青山学院	
昭和23年		第30回全国高等学校野球選手権大会(東京大会第2次予選) 2回戦 明治 ○ 1-0 杉並 3回戦 明治 ○ 2-0 教大付 準々決勝 明治 ○ 5-2 立教 準決勝 明治 ○ 5-0 早実 決 勝 明治 ● 2-4 慶応	第1回秋季関東地区高等学校野球大会 1回戦 明治 ● 5-9 桐生
昭和24年	第3回日本学生野球協会結成記念大会 1回戦 明治 ● 3-9 桐生工  春季東京都高等学校野球大会 準決勝 明治 ● 2-3 都二高	第31回全国高等学校野球選手権大会(東京大会) 1回戦 明治 ○ 11-0 八王子 2回戦 明治 ● 2-3 日大三	第4回国民体育大会 2回戦 明治 ○ 10-3 熊谷 準決勝 明治 ○ 6-3 水戸商 決 勝 明治 ● 1-2 静岡城内  第2回秋季関東地区高等学校野球大会 準々決勝 明治 ○ 6-0 早実 準決勝 明治 ● 1-2 慶応
昭和25年	第22回選抜高等学校野球大会 【甲子園】 1回戦 明治 ○ 6-0 彦根 準々決勝 明治 ● 5-7 北野  第2回春季関東地区高等学校野球大会 1回戦 明治 ○ 14-0 宇都宮商 準決勝 明治 ○ 5-4 水戸一 決 勝 明治 ● 4-5 桐生工	第32回全国高等学校野球選手権大会(東京大会) 2回戦 明治 ○ 5-1 八王子工 3回戦 明治 ○ 3-1 日大三 4回戦 明治 ○ 11-1 北園 準々決勝 明治 ○ 11-3 麻布 準決勝 明治 ○ 2-0 錦城 決 勝 明治 ○ 7-0 早実  第32回全国高等学校野球選手権大会 【甲子園】 2回戦 明治 ● 2-5 北海	第5回国民体育大会 2回戦 明治 ● 0-1 呉阿賀  秋季東京都高等学校野球大会(決勝リーグ) 明治 ○ 6-3 石神井 明治 ○ 10-3 荏原 優勝 明治 ○ 3-1 江戸川  第3回秋季関東地区高等学校野球大会 1回戦 明治 ● 2-6 湘南
昭和26年	第23回選抜高等学校野球大会 【甲子園】 1回戦 明治 ○ 4-1 呉三津田 準々決勝 明治 ○ 2-0 宇都宮工 準決勝 明治 ● 1-9 鳴尾  春季東京都高等学校野球大会 準決勝 明治 ○ 8-0 法政一 決 勝 明治 ○ 13-3 京華  第3回春季関東地区高等学校野球大会 1回戦 明治 ● 7-9 水戸商	第33回全国高等学校野球選手権大会(東京大会) 2回戦 明治 ○ 7-2 両国 3回戦 明治 ○ 4-0 小山台 4回戦 明治 ○ 8-2 帝京 準々決勝 明治 ○ 6-0 江戸川 準決勝 明治 ● 5-7 早実	

# 明治高校野球部戦歴



	春季大会	夏季大会	秋季大会
昭和27年	春季東京都高等学校野球大会 準々決勝 明治 ○ 7-0 立教 準決勝 明治 ○ 3-2 日大二 決勝 明治 ○ 33-1 法政一  第6回日本学生野球協会結成記念大会 第4回春季関東地区高等学校野球大会 準々決勝 明治 ○ 3-1 浦和 準決勝 明治 ● 1-4 宇都宮工	第34回全国高等学校野球選手権大会 (東京大会) 2回戦 明治 ○ 11-0 青山学院 3回戦 明治 ○ 10-0 京王 4回戦 明治 ● 1-2 早実	秋季東京都高等学校野球大会 (決勝リーグ) 明治 ● 4-6 早実 明治 ○ 4-2 日大三 明治 ○ 8-1 日大二
昭和28年	第7回日本学生野球協会結成記念大会 優勝 明治  春季東京都高等学校野球大会 1回戦 明治 ○ 8-0 成蹊 準々勝 明治 ○ 19-0 麻布 準決勝 明治 ○ 8-2 日大三 決勝 明治 ○ 10-1 荏原  第5回春季関東地区高等学校野球大会 2回戦 明治 ○ 5-2 水戸 準決勝 明治 ○ 1-0 甲府商 決勝 明治 ● 4-5 桐生	第35回全国高等学校野球選手権大会 (東京大会) 2回戦 明治 ○ 7-0 大森 3回戦 明治 ○ 4-0 日本学園 4回戦 明治 ○ 19-0 光生 準々決勝 明治 ○ 5-0 立教 準決勝 明治 ○ 7-3 帝京商 決勝 明治 ○ 1-0 荏原  <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">                         第35回全国高等学校野球選手権大会                          【甲子園】                          1回戦 明治 ○ 5-0 甲南                          2回戦 明治 ○ 7-2 熊本                          準々決勝 明治 ○ 2-1 静岡商                          準決勝 明治 ● 0-2 松山商                     </div>	第8回国民体育大会 1回戦 明治 ○ 4-0 高松商 2回戦 明治 ● 1-4 徳島商  秋季東京都高等学校野球大会 準々決勝 明治 ○ 3-0 日大三 準決勝 明治 ○ 4-3 海城 決勝 明治 ● 1-2 早実
昭和29年	第8回日本学生野球協会結成記念大会 1回戦 明治 ● 11-12 石和  春季東京都高等学校野球大会 明治 ● 3-5 早実	第36回全国高等学校野球選手権大会 (東京大会) 1回戦 明治 ○ 13-6 昭和一 2回戦 明治 ○ 2-1 都二商 3回戦 明治 ○ 12-1 高輪 4回戦 明治 ● 2-3 早大学院	秋季東京都高等学校野球大会 準々決勝 明治 ● 6-10 早実
昭和30年	第9回日本学生野球協会結成記念大会 準々決勝 明治 ○ 10-0 甲府一 準決勝 明治 ● 4-10 早実  春季東京都高等学校野球大会 準々決勝 明治 ○ 2-0 荏原 準決勝 明治 ○ 11-4 日大三 決勝 明治 ○ 3-2 早実  第7回春季関東地区高等学校野球大会 1回戦 明治 ○ 3-1 横浜商 2回戦 明治 ● 0-5 水戸商	第37回全国高等学校野球選手権大会 (東京大会) 2回戦 明治 ○ 11-0 大泉 3回戦 明治 ○ 15-0 錦城 4回戦 明治 ● 0-1 早大学院	秋季東京都高等学校野球大会 1回戦 明治 ● 1-2 都四商
昭和31年	春季東京都高等学校野球大会 1回戦 明治 ○ 10-0 新宿 2回戦 明治 ○ 3-0 学習院 準々決勝 明治 ● 3-4 早大学院	第38回全国高等学校野球選手権大会 (東京大会) 1回戦 明治 ○ 11-1 高輪商 2回戦 明治 ○ 5-1 修徳 3回戦 明治 ○ 6-0 千歳 4回戦 明治 ○ 7-1 京華商 準々決勝 明治 ○ 3-2 荏原 準決勝 明治 ● 1-2 早実	
昭和32年		第39回全国高等学校野球選手権大会 (東京大会) 2回戦 明治 ● 1-3 日大一	秋季東京都高等学校野球大会 1回戦 明治 ○ 4-3 法政一 準々決勝 明治 ○ 3-1 桐朋 準決勝 明治 ○ 13-1 修徳 決勝 明治 ● 1-3 早実

	春季大会	夏季大会	秋季大会
昭和33年	<p>第30回選抜高等学校野球大会 【甲子園】</p> <p>2回戦 明治 ○ 5-1 坂出商 準々決勝 明治 ○ 2-0 立命館 準決勝 明治 ● 1-2 中京商</p> <p>春季東京都高等学校野球大会</p> <p>1回戦 明治 ○ 12-0 京北商 2回戦 明治 ○ 9-0 久我山 準々決勝 明治 ○ 6-5 修徳 準決勝 明治 ○ 6-4 足立 決勝 明治 ● 3-6 日大一</p>	<p>第40回全国高等学校野球選手権大会 (東京大会)</p> <p>2回戦 明治 ○ 19-0 昭和一工 3回戦 明治 ○ 13-0 西 4回戦 明治 ○ 9-1 青山学院 5回戦 明治 ○ 7-4 荏原 準々決勝 明治 ○ 8-3 桐朋 準決勝 明治 ○ 9-4 日大二 決勝 明治 ○ 6-5 早実</p> <p>第40回全国高等学校野球選手権大会 【甲子園】</p> <p>1回戦 明治 ○ 3-1 倉敷商 2回戦 明治 ● 6-7 魚津</p>	<p>秋季東京都高等学校野球大会</p> <p>1回戦 明治 ○ 10-0 立正 準々決勝 明治 ○ 5-0 桜美林 準決勝 明治 ● 0-1 日大三 三位決定戦 明治 ● 1-3 早実</p>
昭和34年	<p>第13回日本学生野球協会結成記念大会</p> <p>1回戦 明治 ○ 6-2 木更津一 2回戦 明治 ○ 3-1 金足農 準決勝 明治 ○ 3-2 法政一 決勝 明治 ○ 3-1 早実</p> <p>春季東京都高等学校野球大会</p> <p>準々決勝 明治 ○ 3-2 早実 準決勝 明治 ○ 3-0 日大三 決勝 明治 ○ 6-0 日大二</p> <p>第11回春季関東地区高等学校野球大会</p> <p>2回戦 明治 ○ 1-0 川越 準決勝 明治 ○ 4-1 富岡 決勝 明治 ○ 4-1 横浜商</p>	<p>第41回全国高等学校野球選手権大会 (東京大会)</p> <p>3回戦 明治 ○ 8-1 小山台 4回戦 明治 ○ 4-0 都二商 5回戦 明治 ● 2-4 明大中野</p>	
昭和35年		<p>第42回全国高等学校野球選手権大会 (東京大会)</p> <p>1回戦 明治 ○ 4-1 羽田工 2回戦 明治 ○ 8-2 国立 3回戦 明治 ○ 3-0 日大豊山 4回戦 明治 ○ 8-0 巢鴨 5回戦 明治 ○ 6-0 帝京 準々決勝 明治 ○ 4-1 桜美林 準決勝 明治 ● 0-6 早実</p>	<p>秋季東京都高等学校野球大会</p> <p>1回戦 明治 ○ 11-1 帝京 準々決勝 明治 ○ 8-3 早大学院 準決勝 明治 ● 3-6 日大二</p>
昭和36年	<p>第15回日本学生野球協会結成記念大会</p> <p>2回戦 明治 ○ 7-1 甲府工 準決勝 明治 ● 8-10 日大一</p> <p>春季東京都高等学校野球大会</p> <p>1回戦 明治 ○ 6-3 修徳 2回戦 明治 ● 2-6 日大二</p>	<p>第43回全国高等学校野球選手権大会 (東京大会)</p> <p>3回戦 明治 ○ 5-4 成蹊 4回戦 明治 ○ 8-1 都農林 5回戦 明治 ○ 2-1 中央商 準々決勝 明治 ○ 4-1 都五商 準決勝 明治 ● 2-7 帝京商</p>	<p>秋季東京都高等学校野球大会</p> <p>1回戦 明治 ○ 5-1 佼成学園 準々決勝 明治 ○ 1-0 国士館 準決勝 明治 ● 5-8 日大一</p>
昭和37年	<p>第16回日本学生野球協会結成記念大会</p> <p>1回戦 明治 ○ 4-1 甲府工 2回戦 明治 ○ 5-3 水戸商 準決勝 明治 ○ 3-0 早実 決勝 明治 ● 0-1 日大一</p> <p>春季東京都高等学校野球大会</p> <p>1回戦 明治 ○ 7-0 小山台 2回戦 明治 ○ 13-6 早実 準々決勝 明治 ● 1-2 日大一</p>	<p>第44回全国高等学校野球選手権大会 (東京大会)</p> <p>3回戦 明治 ○ 9-4 足立 4回戦 明治 ○ 4-2 早大学院 5回戦 明治 ● 1-6 法政一</p>	<p>秋季東京都高等学校野球大会</p> <p>1回戦 明治 ○ 7-6 国学院 準々決勝 明治 ● 2-5 都四商</p>

# 明治高校野球部戦歴



	春季大会	夏季大会	秋季大会
昭和38年	春季東京都高等学校野球大会 1回戦 明治 ○ 8-6 錦城 2回戦 明治 ○ 4-1 国学院 準々勝 明治 ○ 4-3 日大一 準決勝 明治 ● 1-7 佼成学園	第45回全国高等学校野球選手権大会 (東京大会) 3回戦 明治 ○ 4-0 深川 4回戦 明治 ○ 8-0 聖学院 5回戦 明治 ○ 3-2 修徳 準々決勝 明治 ○ 5-0 日大二 準決勝 明治 ● 2-3 日大一	秋季東京都高等学校野球大会 1回戦 明治 ● 0-7 荏原
昭和39年	春季東京都高等学校野球大会 1回戦 明治 ○ 2-1 日大桜ヶ丘 2回戦 明治 ○ 10-2 都石神井 準々勝 明治 ● 2-7 国士館	第46回全国高等学校野球選手権大会 (東京大会) 4回戦 明治 ○ 2-0 正則 5回戦 明治 ○ 5-2 足立 6回戦 明治 ○ 2-1 目黒 準々決勝 明治 ● 0-2 早実	秋季東京都高等学校野球大会 (一次予選) 2回戦 明治 ○ 6-1 早大学院 準決勝 明治 ○ 4-1 東洋商 決勝 明治 ○ 5-3 高千穂 (本大会) 1回戦 明治 ○ 3-0 海城 準々決勝 明治 ○ 5-4 佼成学園 準決勝 明治 ○ 7-0 帝京 決勝 明治 ● 0-5 荏原
昭和40年	第37回選抜高等学校野球大会 【甲子園】 1回戦 明治 ○ 4-1 田原本農 2回戦 明治 ● 0-1 岡山東商 春季東京都高等学校野球大会 1回戦 明治 ● 2-3 帝京	第47回全国高等学校野球選手権大会 (東京大会) 4回戦 明治 ○ 10-0 錦城 5回戦 明治 ○ 7-0 法政一 6回戦 明治 ● 2-3 日大二	秋季東京都高等学校野球大会 (一次予選) 1回戦 明治 ○ 10-1 井草 2回戦 明治 ○ 8-1 実践商 準決勝 明治 ○ 8-1 開成 決勝 明治 ○ 2-1 早大学院 (本大会) 1回戦 明治 ○ 5-0 駒込学園 準々決勝 明治 ● 0-3 国士館
昭和41年	春季東京都高等学校野球大会 1回戦 明治 ● 0-6 日大桜ヶ丘	第48回全国高等学校野球選手権大会 (東京大会) 4回戦 明治 ○ 2-1 帝京商工 5回戦 明治 ○ 8-2 関東商工 6回戦 明治 ● 2-5 日大三	秋季東京都高等学校野球大会 (一次予選) 1回戦 明治 ○ 6-1 東亜商 2回戦 明治 ○ 7-3 明正 準決勝 明治 ○ 5-2 大成 決勝 明治 ● 0-3 葛飾商
昭和42年	春季東京都高等学校野球大会 1回戦 明治 ● 4-12 早実	第49回全国高等学校野球選手権大会 (東京大会) 4回戦 明治 ● 1-2 関東	秋季東京都高等学校野球大会 (一次予選) 2回戦 明治 ● 0-11 正則商
昭和43年		第50回全国高等学校野球選手権大会 (東京大会) 2回戦 明治 ○ 11-1 向島工 3回戦 明治 ● 3-9 大島	秋季東京都高等学校野球大会 (一次予選) 2回戦 明治 ● 4-7 武蔵
昭和44年		第51回全国高等学校野球選手権大会 (東京大会) 1回戦 明治 ○ 11-0 成城 2回戦 明治 ○ 10-2 青山 3回戦 明治 ● 2-9 桜美林	秋季東京都高等学校野球大会 (一次予選) 2回戦 明治 ○ 11-0 都立大付 準決勝 明治 ○ 4-2 八王子工 決勝 明治 ● 0-7 明星
昭和45年	春季東京都高等学校野球大会 1回戦 明治 ● 0-6 文京	第52回全国高等学校野球選手権大会 (東京大会) 4回戦 明治 ○ 5-0 都四商 5回戦 明治 ● 2-4 桐朋	秋季東京都高等学校野球大会 (一次予選) 2回戦 明治 ○ 15-0 昭和一 準決勝 明治 ○ 13-1 千歳丘 決勝 明治 ● 1-4 日大一

	春季大会	夏季大会	秋季大会
昭和46年	<p>春季東京都高等学校野球大会</p> <p>1回戦 明治 ○ 6-1 国立</p> <p>2回戦 明治 ○ 5-4 日体荏原</p> <p>準々決勝 明治 ● 0-6 日大三</p>	<p>第53回全国高等学校野球選手権大会 (東京大会)</p> <p>4回戦 明治 ○ 15-0 京華商</p> <p>5回戦 明治 ○ 10-0 新宿</p> <p>6回戦 明治 ○ 10-0 中大杉並</p> <p>準々決勝 明治 ● 1-5 日大三</p>	<p>秋季東京都高等学校野球大会 (一次予選)</p> <p>2回戦 明治 ○ 17-2 明法</p> <p>準決勝 明治 ○ 8-1 両国</p> <p>決勝 明治 ○ 6-4 千歳丘</p> <p>(本大会)</p> <p>1回戦 明治 ○ 5-4 日大二</p> <p>準決勝 明治 ● 4-7 日大桜ヶ丘</p>
昭和47年	<p>春季東京都高等学校野球大会</p> <p>1回戦 明治 ○ 8-1 府中工</p> <p>2回戦 明治 ● 3-6 駒大</p>	<p>第54回全国高等学校野球選手権大会 (東京大会)</p> <p>4回戦 明治 ○ 15-0 豊島実</p> <p>5回戦 明治 ● 1-2 玉川</p>	<p>秋季東京都高等学校野球大会 (一次予選)</p> <p>1回戦 明治 ○ 13-0 早稲田</p> <p>2回戦 明治 ○ 22-0 錦城</p> <p>準決勝 明治 ○ 15-0 西</p> <p>決勝 明治 ○ 6-1 東大和</p> <p>(本大会)</p> <p>1回戦 明治 ○ 5-1 日大三</p> <p>準々決勝 明治 △ 0-0 日大一</p> <p>再試合 明治 ● 0-3 日大一</p>
昭和48年	<p>春季東京都高等学校野球大会</p> <p>1回戦 明治 ○ 10-0 大島</p> <p>2回戦 明治 ○ 3-2 桜美林</p> <p>準々決勝 明治 ○ 4-2 佼成学園</p> <p>準決勝 明治 ○ 2-0 早実</p> <p>決勝 明治 ● 1-14 日大一</p>	<p>第55回全国高等学校野球選手権大会 (東京大会)</p> <p>4回戦 明治 ○ 8-0 大泉</p> <p>5回戦 明治 ○ 2-0 足立</p> <p>6回戦 明治 ○ 4-3 立川</p> <p>準々決勝 明治 ○ 7-0 佼成学園</p> <p>準決勝 明治 ● 0-1 早実</p>	<p>秋季東京都高等学校野球大会 (一次予選)</p> <p>2回戦 明治 ○ 3-1 千歳</p> <p>準決勝 明治 ○ 12-4 農大一</p> <p>決勝 明治 ○ 2-1 国士館</p> <p>(本大会)</p> <p>1回戦 明治 ● 0-4 日体荏原</p>
昭和49年	<p>春季東京都高等学校野球大会</p> <p>1回戦 明治 ○ 3-0 拓大一</p> <p>2回戦 明治 ○ 6-5 大島</p> <p>準々決勝 明治 ● 2-6 日大三</p>	<p>第56回全国高等学校野球選手権大会 (東京大会)</p> <p>4回戦 明治 ○ 2-0 豊島実</p> <p>5回戦 明治 ○ 2-1 日大三</p> <p>準々決勝 明治 ● 1-6 二松学舎</p>	<p>秋季東京都高等学校野球大会 (一次予選)</p> <p>2回戦 明治 ○ 4-1 法政一</p> <p>準決勝 明治 ○ 13-3 羽田工</p> <p>決勝 明治 ○ 7-6 国士館</p> <p>(本大会)</p> <p>1回戦 明治 ● 2-6 正則</p>
昭和50年	<p>春季東京都高等学校野球大会</p> <p>1回戦 明治 ● 0-8 東大和</p>	<p>第57回全国高等学校野球選手権大会 (東京大会)</p> <p>3回戦 明治 ○ 7-0 芝</p> <p>4回戦 明治 ● 7-9 城西</p>	<p>秋季東京都高等学校野球大会 (一次予選)</p> <p>1回戦 明治 ○ 6-0 学習院</p> <p>2回戦 明治 ○ 15-8 早稲田</p> <p>準決勝 明治 ○ 7-0 日比谷</p> <p>決勝 明治 ○ 4-1 駿台学園</p> <p>(本大会)</p> <p>1回戦 明治 ● 2-14 日大一</p>
昭和51年	<p>春季東京都高等学校野球大会</p> <p>1回戦 明治 ○ 3-1 目黒</p> <p>2回戦 明治 ○ 5-4 駒大</p> <p>3回戦 明治 ● 2-9 大森工</p>	<p>第58回全国高等学校野球選手権大会 (東京大会)</p> <p>4回戦 明治 ○ 8-4 九段</p> <p>5回戦 明治 ○ 12-5 麻布</p> <p>準々決勝 明治 ● 0-8 日体荏原</p>	<p>秋季東京都高等学校野球大会 (一次予選)</p> <p>1回戦 明治 ○ 3-1 成城</p> <p>2回戦 明治 ○ 9-4 足立</p> <p>準決勝 明治 ○ 9-2 大森工</p> <p>決勝 明治 ○ 10-0 大泉</p> <p>(本大会)</p> <p>1回戦 明治 ○ 7-1 佼成学園</p> <p>準々決勝 明治 ○ 1-0 早稲田</p> <p>準決勝 明治 ● 2-3 桜美林</p>



	春季大会	夏季大会	秋季大会
昭和52年	春季東京都高等学校野球大会 1回戦 明治 ● 0-4 帝京	第59回全国高等学校野球選手権大会 〈東東京大会〉 4回戦 明治 ○ 2-1 目黒 5回戦 明治 ● 1-7 早稲田	秋季東京都高等学校野球大会 〈一次予選〉 1回戦 明治 ○ 9-0 武蔵 2回戦 明治 ○ 10-0 武蔵村山東 準決勝 明治 ○ 7-2 私城北 決勝 明治 ○ 2-0 岩倉 〈本大会〉 1回戦 明治 ● 0-2 桜美林
昭和53年	春季東京都高等学校野球大会 1回戦 明治 ○ 10-3 独協 2回戦 明治 ● 1-3 東大和	第60回全国高等学校野球選手権大会 〈東東京大会〉 4回戦 明治 ● 2-6 二松学舎大付	秋季東京都高等学校野球大会 〈一次予選〉 1回戦 明治 ○ 10-0 東京工 2回戦 明治 ○ 8-4 片倉 準決勝 明治 ○ 8-4 明正 決勝 明治 ○ 12-9 専大付 〈本大会〉 1回戦 明治 ● 3-10 桜美林
昭和54年	春季東京都高等学校野球大会 2回戦 明治 ● 5-10 新宿	第61回全国高等学校野球選手権大会 〈東東京大会〉 1回戦 明治 ● 2-8 青山学院	秋季東京都高等学校野球大会 〈一次予選〉 2回戦 明治 ○ 5-1 片倉 準決勝 明治 ○ 8-0 成瀬 決勝 明治 ● 1-4 国士館
昭和55年	春季東京都高等学校野球大会 1回戦 明治 ● 0-12 城西	第62回全国高等学校野球選手権大会 〈東東京大会〉 2回戦 明治 ○ 10-3 大森 3回戦 明治 ○ 9-8 関東一 4回戦 明治 ● 2-6 日大豊山	秋季東京都高等学校野球大会 〈一次予選〉 1回戦 明治 ○ 11-0 聖学院 2回戦 明治 ○ 10-0 永福 準決勝 明治 ○ 11-4 明正 決勝 明治 ○ 10-9 成城 〈本大会〉 1回戦 明治 ● 1-11 国学院久我山
昭和56年	春季東京都高等学校野球大会 3回戦 明治 ○ 3-2 東大和 4回戦 明治 ● 0-7 日大二	第63回全国高等学校野球選手権大会 〈東東京大会〉 3回戦 明治 ○ 7-1 私城北 4回戦 明治 ● 4-5 豊南	秋季東京都高等学校野球大会 〈一次予選〉 1回戦 明治 ○ 8-0 深川 2回戦 明治 ● 1-4 中大付
昭和57年		第64回全国高等学校野球選手権大会 〈東東京大会〉 1回戦 明治 ○ 10-4 葛飾野 2回戦 明治 ○ 6-3 城東 3回戦 明治 ○ 10-3 化学工 4回戦 明治 ● 1-5 城西	秋季東京都高等学校野球大会 〈一次予選〉 1回戦 明治 ● 6-13 大東文化大一
昭和58年		第65回全国高等学校野球選手権大会 〈東東京大会〉 1回戦 明治 ○ 13-4 東京学園 2回戦 明治 ○ 7-0 日大豊山 3回戦 明治 ● 0-7 早実	秋季東京都高等学校野球大会 〈一次予選〉 1回戦 明治 ● 2-3 駒場学園
昭和59年		第66回全国高等学校野球選手権大会 〈東東京大会〉 1回戦 明治 ○ 9-2 東工大付 2回戦 明治 ● 10-11 都高専	秋季東京都高等学校野球大会 〈一次予選〉 1回戦 明治 ● 1-8 佼成学園

	春季大会	夏季大会	秋季大会
昭和60年		第67回全国高等学校野球選手権大会 (東東京大会) 1回戦 明治 ● 8 - 15 安田学園	秋季東京都高等学校野球大会 (一次予選) 1回戦 明治 ○ 8 - 1 東工大付 2回戦 明治 ● 1 - 8 駒大
昭和61年		第68回全国高等学校野球選手権大会 (東東京大会) 1回戦 明治 ● 2 - 3 芝浦工大高	秋季東京都高等学校野球大会 (一次予選) 1回戦 明治 ○ 12 - 2 小金井工 2回戦 明治 ○ 8 - 2 練馬 準決勝 明治 ● 4 - 7 大森
昭和62年	春季東京都高等学校野球大会 1回戦 明治 ○ 5 - 1 武蔵村山 2回戦 明治 ● 4 - 6 杉並	第69回全国高等学校野球選手権大会 (東東京大会) 1回戦 明治 ○ 2 - 1 荒川工 2回戦 明治 ○ 6 - 5 日体荏原 3回戦 明治 ○ 9 - 0 青井 4回戦 明治 ● 1 - 8 二松学舎大付	秋季東京都高等学校野球大会 (一次予選) 1回戦 明治 ○ 17 - 1 東京工 2回戦 明治 ● 2 - 9 桐朋
昭和63年		第70回全国高等学校野球選手権大会 (東東京大会) 1回戦 明治 ○ 10 - 0 足立東 2回戦 明治 ○ 7 - 2 海城 3回戦 明治 ● 0 - 10 二松学舎大付	秋季東京都高等学校野球大会 (一次予選) 1回戦 明治 ● 1 - 2 立正
平成元年		第71回全国高等学校野球選手権大会 (東東京大会) 1回戦 明治 ● 2 - 4 東洋	秋季東京都高等学校野球大会 (一次予選) 1回戦 明治 ○ 10 - 0 池袋商 2回戦 明治 ○ 15 - 0 大島南 準決勝 明治 ○ 3 - 1 二松学舎大付 決 勝 明治 ● 0 - 3 日本学園
平成2年	春季東京都高等学校野球大会 1回戦 明治 ○ 14 - 11 国学院 2回戦 明治 ○ 13 - 9 葛西南 3回戦 明治 ● 1 - 8 国士館	第72回全国高等学校野球選手権大会 (東東京大会) 1回戦 明治 ○ 4 - 3 都高専 2回戦 明治 ● 0 - 12 高島	秋季東京都高等学校野球大会 (一次予選) 2回戦 明治 ● 3 - 9 修徳
平成3年		第73回全国高等学校野球選手権大会 (東東京大会) 1回戦 明治 ○ 3 - 1 駒場 2回戦 明治 ● 0 - 10 足立	秋季東京都高等学校野球大会 (一次予選) 1回戦 明治 ● 1 - 10 豊南
平成4年		第74回全国高等学校野球選手権大会 (東東京大会) 1回戦 明治 ● 3 - 4 雪谷	秋季東京都高等学校野球大会 (一次予選) 1回戦 明治 ● 5 - 6 西
平成5年		第75回全国高等学校野球選手権大会 (東東京大会) 1回戦 明治 ○ 4 - 3 田園調布 2回戦 明治 ○ 9 - 2 大森 3回戦 明治 ● 2 - 4 芝浦工大高	秋季東京都高等学校野球大会 (一次予選) 1回戦 明治 ● 5 - 13 羽田工
平成6年		第76回全国高等学校野球選手権大会 (東東京大会) 1回戦 明治 ● 6 - 9 二松学舎大付	秋季東京都高等学校野球大会 (一次予選) 2回戦 明治 ○ 4 - 3 私城北 準決勝 明治 ○ 6 - 5 日大ニ 決 勝 明治 ○ 5 - 4 錦城 (本大会) 1回戦 明治 ● 4 - 8 堀越

# 明治高校野球部戦歴



	春季大会	夏季大会	秋季大会
平成7年	春季東京都高等学校野球大会 1回戦 明治 ○ 12-2 八王子実践 2回戦 明治 ○ 9-1 杉並 3回戦 明治 ○ 2-1 桜美林 4回戦 明治 ● 8-14 駒大	第77回全国高等学校野球選手権大会 〈東東京大会〉 2回戦 明治 ○ 11-6 小山台 3回戦 明治 ● 6-7 城西	秋季東京都高等学校野球大会 〈一次予選〉 1回戦 明治 ● 6-7 法政一
平成8年		第78回全国高等学校野球選手権大会 〈東東京大会〉 2回戦 明治 ○ 10-1 羽田工 3回戦 明治 ● 5-12 八丈	秋季東京都高等学校野球大会 〈一次予選〉 1回戦 明治 ○ 10-8 葛西工 2回戦 明治 ○ 6-1 葛西南 準決勝 明治 ○ 5-2 東村山 決勝 明治 ● 2-9 帝京
平成9年	春季東京都高等学校野球大会 1回戦 明治 ● 2-7 南平	第79回全国高等学校野球選手権大会 〈東東京大会〉 2回戦 明治 ○ 14-5 砧工 3回戦 明治 ● 0-9 国士舘	秋季東京都高等学校野球大会 〈一次予選〉 1回戦 明治 ○ 10-6 広尾 2回戦 明治 ● 5-7 中大付
平成10年		第80回全国高等学校野球選手権大会 〈東東京大会〉 2回戦 明治 ● 5-6 東海高輪台	秋季東京都高等学校野球大会 〈一次予選〉 1回戦 明治 ● 8-9 農林
平成11年		第81回全国高等学校野球選手権大会 〈東東京大会〉 2回戦 明治 ○ 13-7 九段 3回戦 明治 ○ 16-1 学芸大付 4回戦 明治 ● 1-7 早実	秋季東京都高等学校野球大会 〈一次予選〉 1回戦 明治 ○ 12-0 京北 2回戦 明治 ● 0-7 八王子北
平成12年		第82回全国高等学校野球選手権大会 〈東東京大会〉 1回戦 明治 ○ 16-8 赤羽商 2回戦 明治 ○ 11-1 東洋 3回戦 明治 ○ 5-3 東京学園 4回戦 明治 ● 1-4 修徳	秋季東京都高等学校野球大会 〈一次予選〉 1回戦 明治 ○ 8-3 豊多摩 2回戦 明治 ● 4-5 町田
平成13年		第83回全国高等学校野球選手権大会 〈東東京大会〉 2回戦 明治 ● 7-8 都篠崎	秋季東京都高等学校野球大会 〈一次予選〉 1回戦 明治 ○ 11-0 青山 2回戦 明治 ● 1-3 小平南
平成14年		第84回全国高等学校野球選手権大会 〈東東京大会〉 2回戦 明治 ○ 33-0 京北白山 3回戦 明治 ○ 8-2 都雪谷 4回戦 明治 ○ 4-1 都高島 5回戦 明治 ● 0-10 二松学舎大付	秋季東京都高等学校野球大会 〈一次予選〉 1回戦 明治 ○ 4-3 砂川 2回戦 明治 ● 0-9 修徳
平成15年		第85回全国高等学校野球選手権大会 〈東東京大会〉 1回戦 明治 ○ 6-4 足立学園 2回戦 明治 ● 0-6 東洋	秋季東京都高等学校野球大会 〈一次予選〉 1回戦 明治 ○ 7-0 東京工高専 2回戦 明治 ○ 9-8 松原 準決勝 明治 ● 3-4 杉並
平成16年	春季東京都高等学校野球大会 1回戦 明治 ○ 7-1 麻布 2回戦 明治 ● 3-5 東農大一	第86回全国高等学校野球選手権大会 〈東東京大会〉 1回戦 明治 ○ 28-0 赤羽商 2回戦 明治 ● 4-5 東農大一	秋季東京都高等学校野球大会 〈一次予選〉 1回戦 明治 ○ 10-1 府中東 2回戦 明治 ○ 5-3 成蹊 準決勝 明治 ● 2-9 二松学舎大付



	春季大会	夏季大会	秋季大会
平成17年	春季東京都高等学校野球大会 <本大会> 2回戦 明治 ○ 13-0 朋優学院 3回戦 明治 ● 4-5 芝浦工大高	第87回全国高等学校野球選手権大会 <東東京大会> 2回戦 明治 ○ 7-0 大東学園 3回戦 明治 ● 2-6 世田谷学園	秋季東京都高等学校野球大会 <一次予選> 1回戦 明治 ● 8-9 都高島
平成18年	春季東京都高等学校野球大会 <一次予選> 1回戦 明治 ○ 8-7 都日比谷 準決勝 明治 ○ 15-0 京北 決勝 明治 ○ 5-1 都福生 <本大会> 2回戦 明治 ● 4-6 正則学園	第88回全国高等学校野球選手権大会 <東東京大会> 1回戦 明治 ○ 10-3 開成 2回戦 明治 ○ 16-6 都三宅 3回戦 明治 ● 1-8 関東一	秋季東京都高等学校野球大会 <一次予選> 1回戦 明治 ○ 7-0 和光 2回戦 明治 ● 0-3 日大三
平成19年	春季東京都高等学校野球大会 <一次予選> 準決勝 明治 ○ 4-1 都日野 決勝 明治 ● 4-9 都小山台	第89回全国高等学校野球選手権大会 <東東京大会> 2回戦 明治 ○ 2-1 豊南 3回戦 明治 ● 2-12 東海大高輪台	秋季東京都高等学校野球大会 <一次予選> 2回戦 明治 ● 2-3 都足立工
平成20年	春季東京都高等学校野球大会 <一次予選> 1回戦 明治 ○ 5-2 都豊多摩 準決勝 明治 ○ 7-0 立正 決勝 明治 ○ 4-2 都町田工 <本大会> 1回戦 明治 ○ 8-0 都東大和 2回戦 明治 ○ 3-2 都日野台 3回戦 明治 ● 1-4 堀越	第90回全国高等学校野球選手権大会 <西東京大会> 2回戦 明治 ○ 5-4 明大中野 3回戦 明治 ● 2-3 都保谷	秋季東京都高等学校野球大会 <一次予選> 2回戦 明治 ○ 3-0 都戸山 準決勝 明治 ○ 8-1 都八王子北 決勝 明治 ○ 3-2 都葛飾野 <本大会> 2回戦 明治 ● 2-6 帝京
平成21年	春季東京都高等学校野球大会 <本大会> 1回戦 明治 ● 3-4 都小平	第91回全国高等学校野球選手権大会 <西東京大会> 1回戦 明治 ○ 7-2 都南多摩 2回戦 明治 ○ 11-2 都青梅総合 3回戦 明治 ● 3-4 日大鶴ヶ丘	秋季東京都高等学校野球大会 <一次予選> 2回戦 明治 ● 2-7 順天
平成22年	春季東京都高等学校野球大会 <一次予選> 準決勝 明治 ○ 14-1 都田柄 決勝 明治 ○ 10-1 都多摩 <本大会> 1回戦 明治 ● 2-8 駒場学園	第92回全国高等学校野球選手権大会 <西東京大会> 2回戦 明治 ○ 2-1 都清瀬 3回戦 明治 ○ 12-0 都田無 4回戦 明治 ○ 7-0 明大中野 5回戦 明治 ● 8-9 堀越	秋季東京都高等学校野球大会 <一次予選> 1回戦 明治 ○ 14-0 成城 2回戦 明治 ○ 10-0 都日本橋 決勝 明治 ○ 6-5 都府中西 <本大会> 1回戦 明治 ○ 11-10 聖パウロ学園 2回戦 明治 ○ 6-2 都江戸川 3回戦 明治 ● 0-4 早大学院
平成23年	春季東京都高等学校野球大会 <本大会> 1回戦 明治 ● 5-14 創価	第93回全国高等学校野球選手権大会 <西東京大会> 1回戦 明治 ○ 10-0 聖徳学園 2回戦 明治 ○ 3-1 成蹊 3回戦 明治 ● 1-2 都昭和	秋季東京都高等学校野球大会 <一次予選> 1回戦 明治 ● 1-2 日大鶴ヶ丘

※東京都高校野球のあゆみ「白球譜」第1集～第5集(発行/東京都高等学校野球連盟)、「六十年の歩み」(発行/明治大学付属明治中学高等学校)より参照

歴代監督・部長・主将一覽



島岡吉郎



年	監督	部長	主将	甲子園出場
昭和 23	島岡 吉郎	野木 晋一郎	牛島 孚	
昭和 24	島岡 吉郎	野木 晋一郎	杉本 正太郎	
昭和 25	島岡 吉郎	野木 晋一郎	吉中 宣雄	春・夏
昭和 26	島岡 吉郎	野木 晋一郎	松田 龍太郎	春
昭和 27	迫畑 正巳	野木 晋一郎	堀岡 清見	
昭和 28	白井 令央／野瀬 昌三	野木 晋一郎	石田 雅亮	夏
昭和 29	美山 誠	野木 晋一郎	佐藤 孝夫	
昭和 30	河村 実義	野木 晋一郎	遠藤 明	
昭和 31	河村 実義	野木 晋一郎	安田 治夫	
昭和 32	枯木 憲二	野木 晋一郎	飯田 和弘	
昭和 33	松田 龍太郎	野木 晋一郎	宮澤 政信	春・夏
昭和 34	松田 龍太郎	野木 晋一郎	渡辺 直	
昭和 35	松田 龍太郎	野木 晋一郎	古庄 弘勝	
昭和 36	栗崎 武久／飯田 和弘	野木 晋一郎	澤田 輝夫	
昭和 37	奥村 千秋	福島 則夫	直井 繁治	
昭和 38	大溪 弘文	福島 則夫	月岡 恒夫	
昭和 39	大溪 弘文	福島 則夫	佐々 木 勉	
昭和 40	大溪 弘文	福島 則夫	大沢 富次	春
昭和 41	大溪 弘文	福島 則夫	高野 清	
昭和 42	大溪 弘文	福島 則夫	会川 真一郎	
昭和 43	大溪 弘文	三田 行男	在籍者なし	
昭和 44	大溪 弘文	三田 行男	池上 繁夫	
昭和 45	大溪 弘文	三田 行男	國井 勇二	
昭和 46	大溪 弘文	三田 行男	田中 孝幸	
昭和 47	大溪 弘文／榊原 光一	三田 行男	岩田 満久	
昭和 48	卯木 敏夫	三田 行男	飯田 邦夫	
昭和 49	卯木 敏夫	三田 行男	堀籠 健作	
昭和 50	卯木 敏夫	三田 行男	山田 真也	
昭和 51	卯木 敏夫	三田 行男	関 勤	
昭和 52	卯木 敏夫	山脇 信彦	土肥 誠	
昭和 53	卯木 敏夫	山脇 信彦	熊倉 章雄	
昭和 54	卯木 敏夫	山脇 信彦	山田 健二	
昭和 55	田中 徹太郎	山脇 信彦	野田 宏幸	
昭和 56	田中 徹太郎	清水 紀夫	染谷 貴男	
昭和 57	田中 徹太郎	清水 紀夫	大野 久芳	
昭和 58	田中 徹太郎	清水 紀夫	大山 輝芳	
昭和 59	石島 克久／卯木 敏也	清水 紀夫	小原 輝生	
昭和 60	原 健治／山本 晃裕	清水 紀夫	生井 康文	
昭和 61	山本 晃裕	清水 紀夫	香取 忠	
昭和 62	山本 晃裕	清水 紀夫	郡司 晃浩	
昭和 63	山本 晃裕	清水 紀夫	田中 博樹	
平成 01	山本 晃裕	清水 紀夫	桜井 敦	
平成 02	山本 晃裕	田中 徹太郎	関口 淳一	
平成 03	卯木 敏夫	田中 徹太郎	寺土 博昭	
平成 04	卯木 敏夫	山脇 信彦	森脇 泰史	
平成 05	卯木 敏夫	山脇 信彦	藤山 明宏	
平成 06	卯木 敏夫	山脇 信彦	椋島 健太	
平成 07	卯木 敏夫	山脇 信彦	濱田 薫	
平成 08	卯木 敏夫	田村 孝廣	高田 健介	
平成 09	卯木 敏夫	田村 孝廣	小笠原 勉	
平成 10	卯木 敏夫	田村 孝廣	松浦 和弘	
平成 11	卯木 敏夫	藤田 昭造	平林 悠	
平成 12	真利子 直人	藤田 昭造	木村 純	
平成 13	真利子 直人	藤田 昭造	川上 勉	
平成 14	真利子 直人	藤田 昭造	原 龍朗	
平成 15	真利子 直人	藤田 昭造	矢野 寛之	
平成 16	真利子 直人	藤田 昭造	田中 康智	
平成 17	真利子 直人	藤田 昭造	角田 隆悟	
平成 18	真利子 直人	藤田 昭造	玉山 圭介	
平成 19	真利子 直人	田村 孝廣	内藤 勝成	
平成 20	澤田 睦夫	田村 孝廣	西澤 翔	
平成 21	澤田 睦夫	前島 研二	井浦 貴之	
平成 22	小林 千春	前島 研二	木下 弦	
平成 23	小林 千春	前島 研二	高野 真生	

## 監督を囲む会



### 「獅子の会」 昭和39年卒 増田 雄太郎

昭和38年7月 都予選 準決勝 明治高校対日大一戦。この年のベンチは明大を卒業し、2年目で、高校野球の監督をスタートした若き大溪弘文さんが座った。コーチには渡辺直さん(昭和35年卒)。あの33年夏、早実戦12回裏1死無走者に代打で出場し、王投手から三塁強襲ヒット出塁の斬り込み隊長です。

この年は実戦主義の大溪流で、春以降、関東信静の強豪と積極的に試合を重ねた。桐生に負けたぐらいで、松商、静岡にも勝って、チームは力をつけていた。そして夏本番のここまでは、先制、中押しで先手を取り、投手(増田、吉田)の継投で反撃を抑えるスタイルで勝ち上がって来た。日大一戦も何とか5回まで、1対0で先行出来たが、今大会初めて逆転されて2対3で負けた。私が大溪監督と共に戦った高校3年夏の記憶です。

その大溪さんが、半世紀余の指導現場からノックバット

を置きました。薫陶を受けたOB達(昭和39～50年卒)が動いて、平成23年11月

27日「獅子の会」(大溪監督を囲む会)が青山のレストラン「駄々」(昭和41年卒山口君の店)で開かれました。52名のOBが参加され、歳も忘れて大変盛り上がりました。大溪博子夫人、ご家族にもご出席いただき、笑顔の輪が広がりました。

そして、この会の実行委員は、小泉孝一、片山三隆(昭和40年卒)、浦本政明(昭和42年卒)、児玉実(昭和43年卒)、藤谷道秋(昭和45年卒)、國井勇二、平野英之(昭和46年卒)、沖原純朗(昭和47年卒)、森田勉(昭和48年卒)の方々にご尽力いただきました。

席上、次の役員が決まりました。

会 長 増田雄太郎(昭和39年卒)

副会長 児玉実(昭和43年卒)・田中孝幸(昭和47年卒)

会 計 國井勇二(昭和46年卒)・沖原純朗(昭和47年卒)

※以下敬称略

「獅子の会」今後の目標を申し述べます。

1. 明治高校野球部100周年式典へ向けての積極的協力
2. 明治高校野球部への更なる応援
3. 大溪弘文さんと会員各位の健康と長寿を願う

### 「卯の木会」 昭和50年卒 桑崎 安弘



昭和50年卒明紫会の桑崎です。「卯の木会」は我々が故卯木監督を守る会として、昭和50年に発足致しました。最初は昭和49年の1月3日に、当時の硬式野球部員(50年卒11名、51年卒6名、合計17名)が卯木さんのお宅に新年会として招かれまして、京子夫人のおいしい手料理をたらふく食べさせて頂きました。

翌年私達は明治高校を卒業しますので、同期のスーパーエース橋本さんが、色紙に『卯木監督を守る会』と大きな汚い字で書き、私たちが寄せ書きをしました。それから一年に一度新年会として集まり、回を重ねる度に人数が増えて、最大で30名ほどでお邪魔した事もありましたが、あまりにも大人数で京子夫人が大変です。外部の施設で行う事になり、南千住の金太郎寿司や、浅草のふぐ屋など、開催場所を転々としながら開催してまいりました。

平成13年からは、同期の須藤さんがいらっしゃる「浦安ブライトンホテル」にお世話になっております。平成20年に卯木さんがお亡くなりになった後も何とか開催をしまして、お蔭様で今年で38回目を迎える事が出来ました。卯木さんは入院されている時に、「俺が死んでも卯の木会は永遠に続ける！」とおっしゃっており、たくさんの先輩、後輩

仲間達と、卯木さんが大好きでした「明治高校」に微力ながら恩返しが出来れば

と考えております。「卯の木会」は野球部OBの方だけではなく、明治中学、高校、大学に一日でも在籍した人に資格があり、また会員の推薦があればOKという、ようは明治が好きで、卯木さんが好きで、仲間が好きであれば、どなたでも会員として迎えられる。会としての活動は今のところ新年会だけですが、今後は範囲を広げて行きたいと考えております。

卯木さんにはたくさんの人生教訓を教えて頂きましたが、その中で、「仲間を大事にして、お金を使うのなら仲間の所へ落とせ」「男の価値は死んだ時にしか分からない、義理の花輪の数じゃなく、どれだけたくさんの人が、弔問に来てくれるかが大事なんだ」「男の人生・義理と人情とやせ我慢」などと良く話をされておりました。私達も卯木精神を継承して、これからも「卯の木会」を発展させて参りますので、皆様方もぜひご参加下さいます様、宜しく願い申し上げます。



